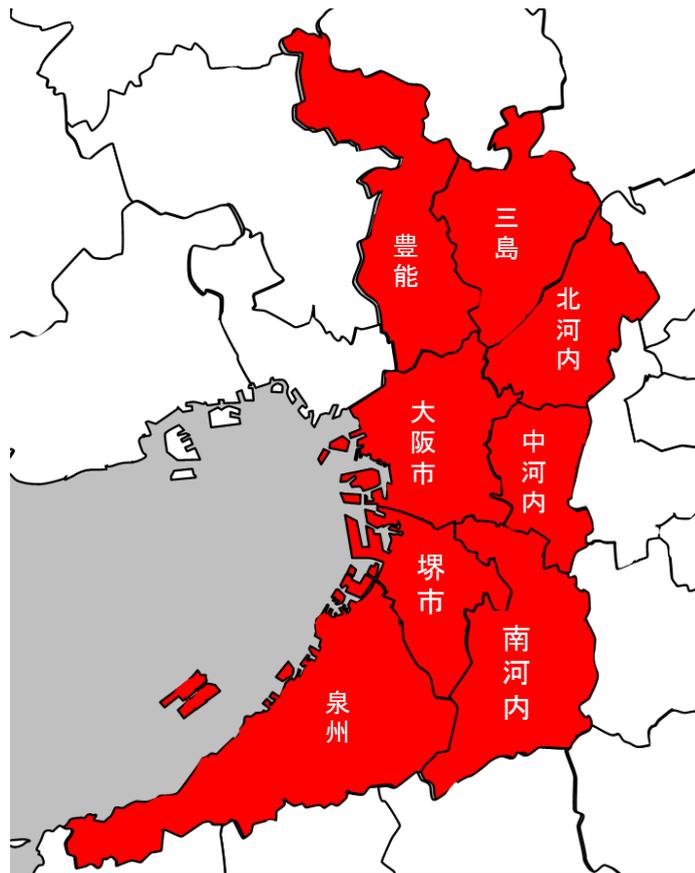


27. 大阪府

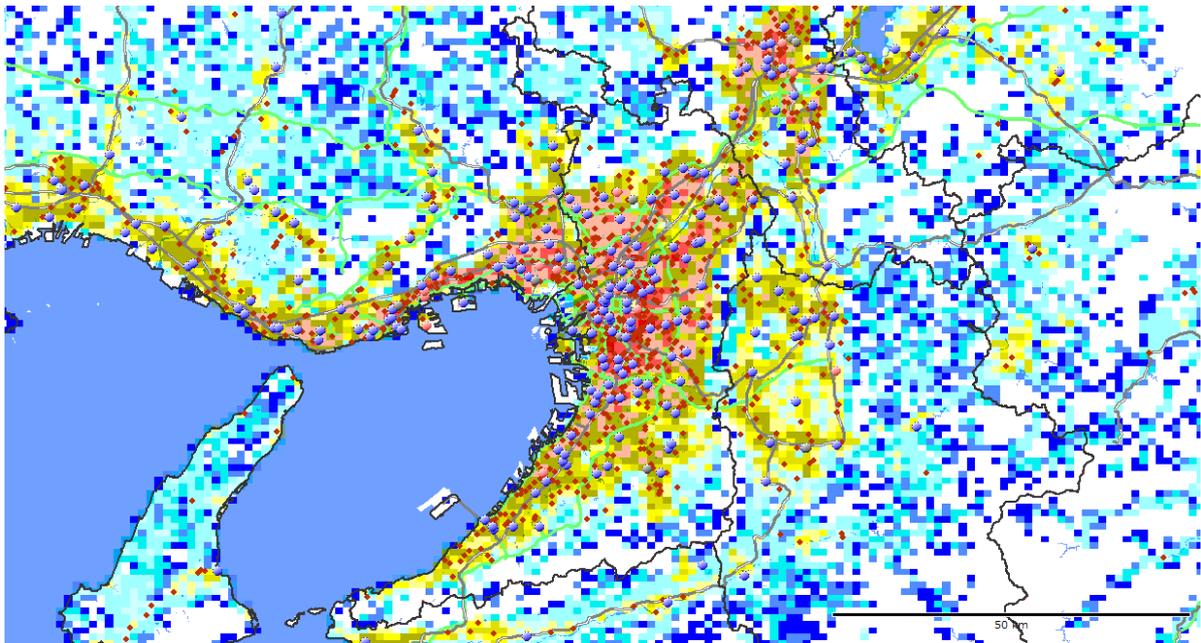


目次

大阪府	27	-	3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料	27	-	8
1. 豊能医療圏	27	-	26
2. 三島医療圏	27	-	31
3. 北河内医療圏	27	-	36
4. 中河内医療圏	27	-	41
5. 南河内医療圏	27	-	46
6. 堺市医療圏	27	-	51
7. 泉州医療圏	27	-	56
8. 大阪市医療圏	27	-	61

27. 大阪府

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。
赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は
中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が
少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS
Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPC病院



(大阪府) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 大阪府は、総人口約8,839千人(2015年)、面積1,905km²、人口密度は4,640人/km²である。

*人口の将来予測： 大阪府の総人口は2025年に8,526千人へと減少し(2015年比-4%)、2040年に7,649千人へと減少する(2025年比-10%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の1,050千人が、2025年にかけて1,507千人へと増加し(2015年比+44%)、2040年には1,433千人へと減少する(2025年比-5%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 大阪府の一人当たり医療費(国保)は364千円(偏差値52)、介護給付費は272千円(偏差値55)であり、医療費は全国平均レベルであるが、介護給付費はやや高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 大阪府の一人当たり急性期医療密度指数は1.07、一人当たり慢性期医療密度指数は1.01で、急性期の医療も慢性期の医療も全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が53(病院医師数53、診療所医師数55)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は49と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は52で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は52と全国平均レベルである。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は50と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値49と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値51と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は48で精神病床数は全国平均レベルである。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は58で診療所数は多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 大阪府の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、111,709人(75歳以上1,000人当たりの偏差値51)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が55,050床(偏差値43)、高齢者住宅等が56,659床(偏差値56)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、73,865人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設45、特別養護老人ホーム46、介護療養型医療施設45、有料老人ホーム52、軽費ホーム49、グループホーム46、サ高住64である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値68と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値54とやや多い。また、訪問看護ステーションは偏差値63と多い。介護職員(在宅)の合計は、29,827人(75歳以上1,000人当たりの偏差値78)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-41%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

2. 推移

【人口と医療需要】

大阪府の総人口は、2005年8,817,166人が、2015年に8,839,469人と1%未満増加し、2025年の人口が8,526,202人と予測され、2005年→2025年の間に3%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に17%増加し、2015年から2025年にかけて5%程度の増加が予測される。

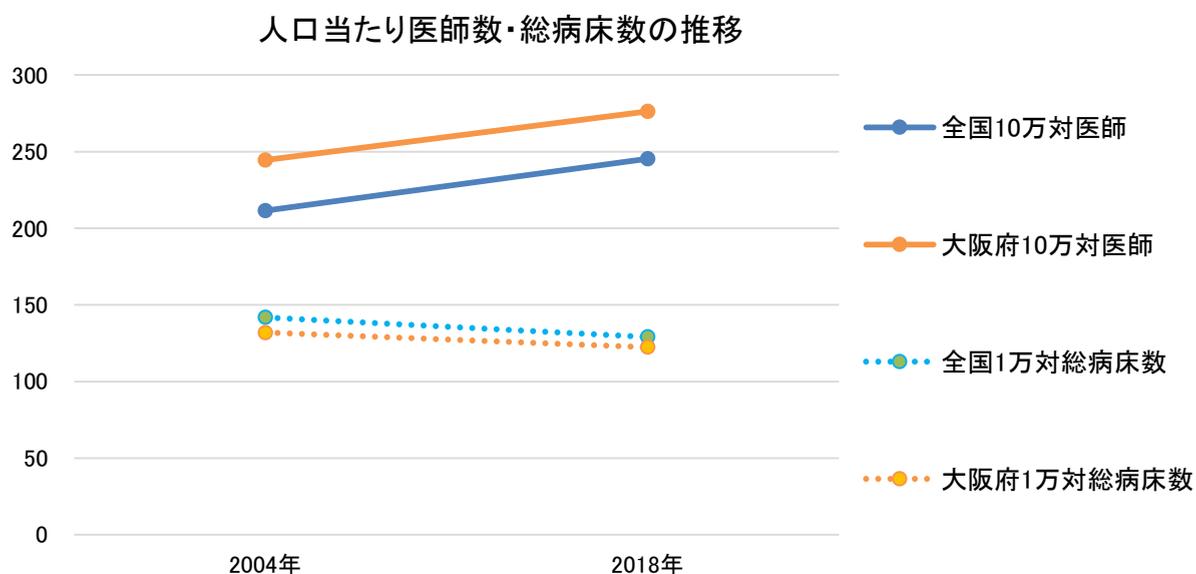
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が555(人口10万人当たり6.3病院(全国平均7.1)偏差値48)であったが、2018年に517(人口10万人当たり5.8病院(全国平均6.6)偏差値48)となり、14年間で38病院が減少した。

2004年の診療所数が8,118(人口10万人当たり92診療所(全国平均76)偏差値58)であったが、2018年に8,481(人口10万人当たり96診療所(全国平均80)偏差値58)と、363診療所が増加した。

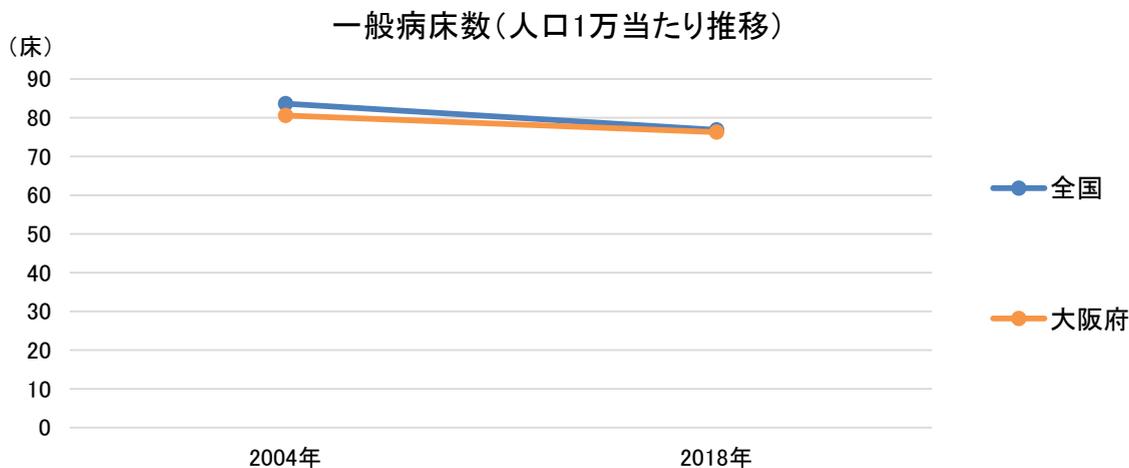
2004年の総病床数が116,330床(人口1万人当たり132(全国平均142)偏差値48)であったが、2018年に108,290床(人口1万人当たり123(全国平均129)偏差値49)と、8,040床の減少、率にして7%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての総医師数が21,563人(人口10万人当たり245人(全国平均212人)偏差値54)であったが、2018年に24,414人(人口10万人当たり276人(全国平均245人)偏差値53)と、2,851人の増加、率にして13%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。



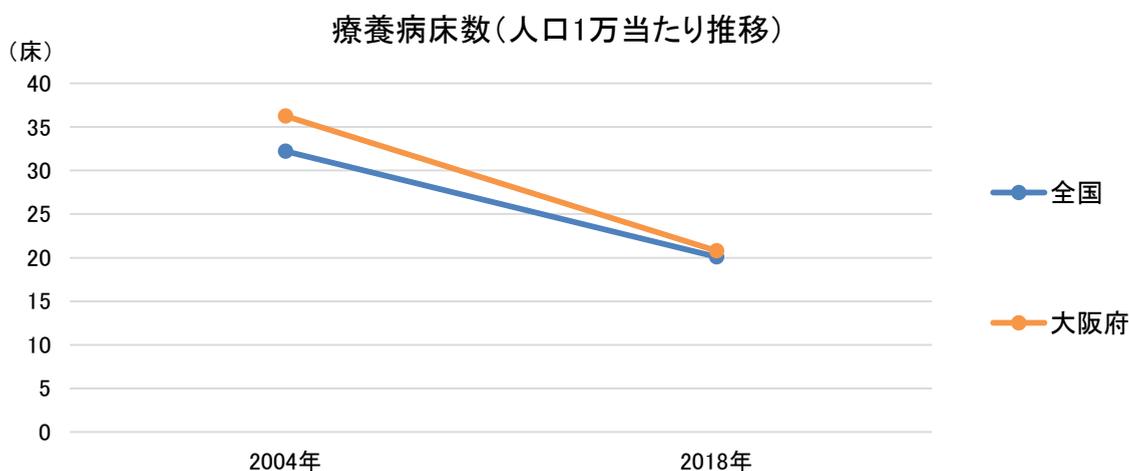
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が71,070床(人口1万人当たり81(全国平均84)偏差値49)であったが、2018年に67,458床(人口1万人当たり76(全国平均77)偏差値50)と、3,612床の減少、率にして5%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



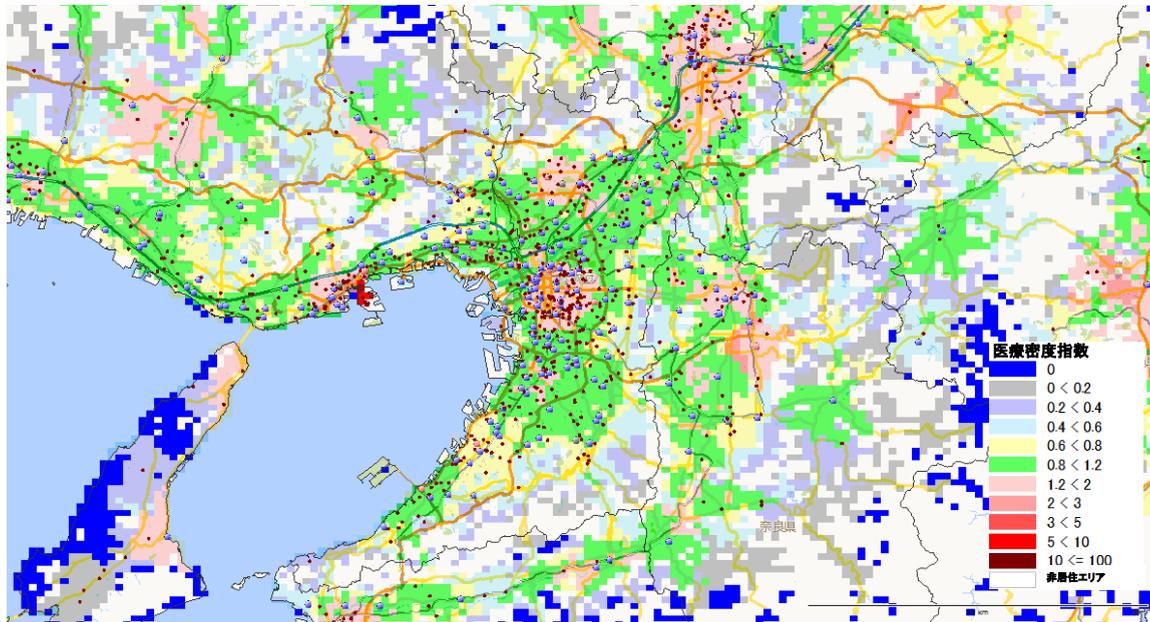
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が23,571床(75歳以上1,000人当たり36(全国平均32)偏差値52)であったが、2018年に21,835床(75歳以上1,000人当たり21(全国平均20)偏差値51)と、1,736床の減少、率にして7%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



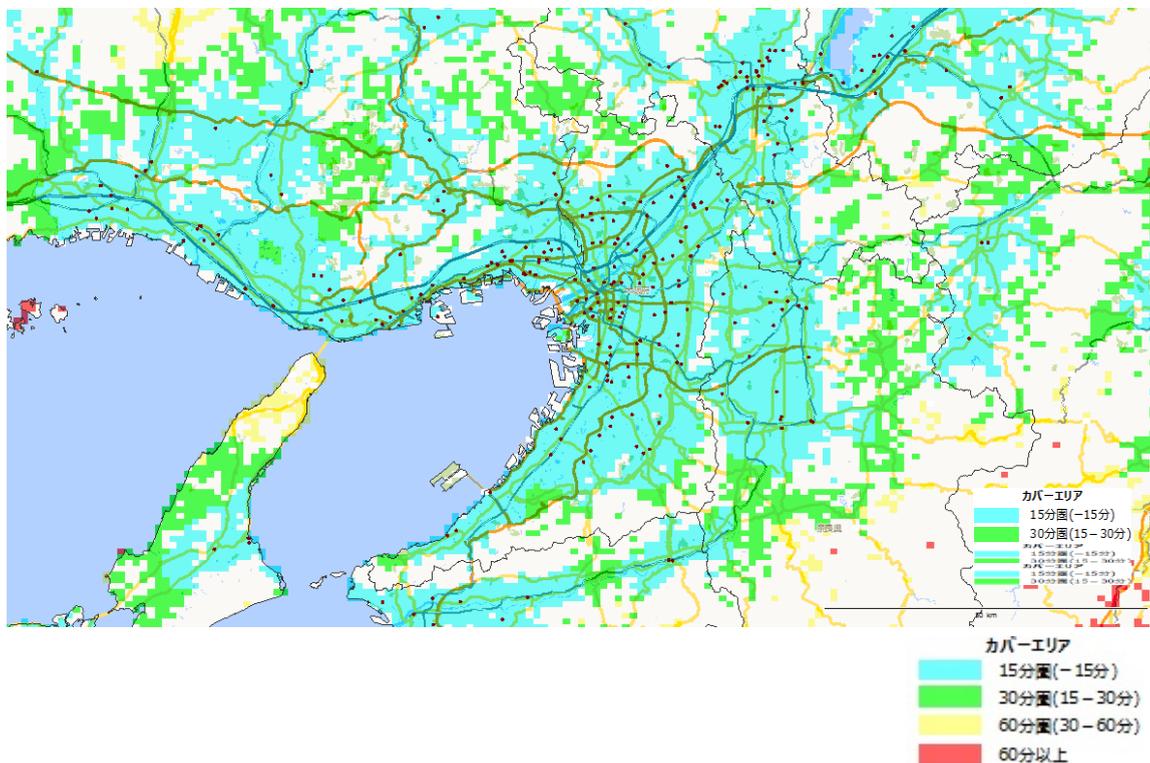
(大阪府) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）



資料編 ー 当県ならびに二次医療圏別資料

資_図表 27-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	127,095		372,950		340.8		27%	122,544	110,919	16,322	21,800	22,392	-4%	-9%	34%	3%
大阪府	8,839	3位	1,905	46位	4,639.7		26%	8,526	7,649	1,050	1,507	1,433	-4%	-10%	44%	-5%
豊能	1,037	12%	276	14%	3,761.2	大都市型	25%	1,047	996	120	180	186	1%	-5%	50%	3%
三島	747	8%	213	11%	3,498.8	大都市型	26%	729	664	84	131	125	-2%	-9%	56%	-5%
北河内	1,164	13%	177	9%	6,563.7	大都市型	28%	1,077	894	136	213	195	-7%	-17%	57%	-8%
中河内	843	10%	129	7%	6,541.1	大都市型	28%	792	689	103	143	124	-6%	-13%	39%	-13%
南河内	613	7%	290	15%	2,113.4	大都市型	29%	554	446	79	115	108	-10%	-19%	46%	-6%
堺市	839	9%	150	8%	5,601.7	大都市型	27%	813	734	100	150	137	-3%	-10%	50%	-9%
泉州	906	10%	445	23%	2,036.3	大都市型	25%	851	738	104	146	142	-6%	-13%	40%	-3%
大阪市	2,691	30%	225	12%	11,948.1	大都市型	25%	2,663	2,489	324	428	417	-1%	-7%	32%	-3%

出典 <人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月
<人口(2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月
<面積>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月

資_図表 27-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり 急性期医療 密度指数	一人当たり 慢性期医療 密度指数	75歳以上介護充足度		
			2019年 ベッド数	2025年目標 ベッド数	2025年充足度 指数 (%)
全国	1.00	1.00	1,499,244	1,772,098	-18.2%
大阪府	1.07	1.01	87,946	124,336	-41.4%
豊能	1.09	0.57	9,692	14,076	-45.2%
三島	1.00	0.62	6,117	10,665	-74.4%
北河内	1.00	0.68	11,148	17,524	-57.2%
中河内	0.87	1.15	7,420	12,188	-64.3%
南河内	0.93	1.65	5,793	9,420	-62.6%
堺市	1.09	1.57	7,275	11,906	-63.7%
泉州	0.78	1.07	6,071	12,069	-98.8%
大阪市	1.31	0.85	34,430	36,488	-6.0%

出典 <一人当たり急性期医療密度指数><一人当たり慢性期医療密度指数>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2016年度版)序章【参考資料】参照(日医総研WP no.375))
<75歳以上介護充足度指数>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。2025年の75歳以上推定人口から算出した高齢者住宅・施設の目標ベッド数が2019年ベッド数と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

資_図表 27-3 国保の医療費・地域差指数、全体の介護給付費

二次医療圏	一人あたり 医療費 (国保のみ) (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	被保険者 一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	356	(44)	1.000	139	(31)	1.000	192	(17)	1.000	255	(34)
大阪府	364	52	1.065	138	50	1.041	196	52	1.060	272	55
豊能	369	53	1.038	138	50	0.999	199	54	1.037	253	49
三島	388	57	1.064	151	54	1.062	208	59	1.052	213	38
北河内	369	53	1.046	139	50	1.015	200	55	1.050	249	48
中河内	371	53	1.072	140	50	1.037	200	54	1.068	274	56
南河内	374	54	1.040	142	51	1.020	201	55	1.033	255	50
堺市	382	56	1.072	146	52	1.058	204	57	1.057	268	54
泉州	372	54	1.072	148	53	1.100	195	52	1.042	252	49
大阪市	342	47	1.074	127	46	1.027	185	46	1.079	319	69
出典	<一人あたり医療費>平成29年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成29年度介護保険事業状況報告(年報) 平成29年度累計(平成29年3月サービス分から平成30年2月サービス分まで) ※介護給付費の二次医療圏値の算定には、福岡県と沖縄県の一部市町村が二次医療圏をまたぐ広域連合を構成しているため、構成市町村の75歳以上人口による按分を用いた。また、複数の二次医療圏をもつ横浜市および川崎市は同じデータを記載。										

資_図表 27-4 後期高齢者の医療費・地域差指数

二次医療圏	一人あたり 後期高齢者 医療費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差 指数
全国	929	(120)	1.000	466	(100)	1.000	429	(38)	1.000
大阪府	1,042	59	1.153	517	55	1.157	475	62	1.122
豊能	1,002	56	1.114	490	52	1.097	459	58	1.097
三島	1,043	59	1.161	538	57	1.219	457	58	1.084
北河内	973	54	1.088	468	50	1.072	460	58	1.084
中河内	968	53	1.088	445	48	1.021	472	61	1.126
南河内	973	54	1.077	482	52	1.080	442	53	1.044
堺市	1,073	62	1.179	560	59	1.250	461	58	1.077
泉州	1,073	62	1.173	570	60	1.263	458	58	1.068
大阪市	1,112	65	1.211	544	58	1.190	515	73	1.206
出典	<一人あたり医療費>平成29年度医療費の地域差分析 厚生労働省								

資_図表 27-5 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	8,372		6.6	(3.9)	102,105		80	(19.0)
大阪府	517	6.2%	5.8	48	8,481	8.3%	96	58
豊能	47	9%	4.5	45	977	12%	94	57
三島	38	7%	5.1	46	605	7%	81	50
北河内	61	12%	5.2	47	901	11%	77	48
中河内	38	7%	4.5	45	664	8%	79	49
南河内	38	7%	6.2	49	462	5%	75	47
堺市	44	9%	5.2	47	740	9%	88	54
泉州	76	15%	8.4	55	668	8%	74	47
大阪市	175	34%	6.5	50	3,464	41%	129	75
出典	平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月			

資_図表 27-6 診療所数(全体、無床、有床)

二次医療圏	診療所数(再掲)	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	無床診療所数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	有床診療所数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	102,105		80	(19.0)	95,171		75	(18.9)	6,934		5.5	(5.8)
大阪府	8,481	8.3%	96	58	8,252	8.7%	93	60	229	3.3%	2.6	45
豊能	977	12%	94	57	960	12%	93	59	17	7%	1.6	43
三島	605	7%	81	50	585	7%	78	52	20	9%	2.7	45
北河内	901	11%	77	48	868	11%	75	50	33	14%	2.8	45
中河内	664	8%	79	49	643	8%	76	51	21	9%	2.5	45
南河内	462	5%	75	47	450	5%	73	49	12	5%	2.0	44
堺市	740	9%	88	54	715	9%	85	55	25	11%	3.0	46
泉州	668	8%	74	47	646	8%	71	48	22	10%	2.4	45
大阪市	3,464	41%	129	75	3,385	41%	126	77	79	34%	2.9	46
出典	平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月			

資_図表 27-7 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院 総病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院+ 診療所 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,546,554		1,217	(476)	94,853		75	(91)	1,641,407		1,291	(530)
大阪府	105,994	6.9%	1,199	50	2,296	2.4%	26	45	108,290	6.6%	1,225	49
豊能	11,117	10%	1,072	47	201	9%	19	44	11,318	10%	1,092	46
三島	8,758	8%	1,173	49	220	10%	29	45	8,978	8%	1,202	48
北河内	11,889	11%	1,021	46	411	18%	35	46	12,300	11%	1,057	46
中河内	7,438	7%	883	43	163	7%	19	44	7,601	7%	902	43
南河内	8,261	8%	1,348	53	140	6%	23	44	8,401	8%	1,371	51
堺市	12,044	11%	1,435	55	189	8%	23	44	12,233	11%	1,458	53
泉州	14,728	14%	1,626	59	266	12%	29	45	14,994	14%	1,655	57
大阪市	31,759	30%	1,180	49	706	31%	26	45	32,465	30%	1,206	48
出典	平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資_図表 27-8 病院病床数(一般病床、療養病床、精神病床)

二次医療圏	一般 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	療養 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	精神 病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	890,712		701	(223)	319,506		251	(200)	329,692		259	(209)
大阪府	65,206	7.3%	738	52	21,791	6.8%	247	50	18,487	5.6%	209	48
豊能	7,402	11%	714	51	1,576	7%	152	45	2,035	11%	196	47
三島	5,298	8%	709	50	1,133	5%	152	45	2,327	13%	312	52
北河内	7,860	12%	675	49	2,059	9%	177	46	1,791	10%	154	45
中河内	4,370	7%	519	42	1,328	6%	158	45	1,740	9%	206	47
南河内	4,733	7%	772	53	1,822	8%	297	52	1,640	9%	268	50
堺市	5,632	9%	671	49	3,692	17%	440	59	2,641	14%	315	53
泉州	4,626	7%	511	41	4,014	18%	443	60	6,078	33%	671	70
大阪市	25,285	39%	940	61	6,167	28%	229	49	235	1%	9	38
出典	平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月				平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月			

資_図表 27-9 回復期リハビリ病棟病床数と地域包括ケア病棟病床数

二次医療圏	回復期病床数				地域包括ケア病床数			
	回復期病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	地域包括ケア病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	80,806		64	(46)	79,543		63	(71)
大阪府	5,884	7.3%	67	51	4,470	5.6%	51	48
豊能	877	15%	85	55	236	5%	23	44
三島	604	10%	81	54	321	7%	43	47
北河内	815	14%	70	51	395	9%	34	46
中河内	384	7%	46	46	314	7%	37	46
南河内	180	3%	29	43	511	11%	83	53
堺市	482	8%	57	49	597	13%	71	51
泉州	862	15%	95	57	396	9%	44	47
大阪市	1,680	29%	62	50	1,700	38%	63	50
出典	平成29年度病床機能報告 平成29年7月				令和元年6月地方厚生局			

資_図表 27-10 公的病院病床数、民間病院病床数

二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般病床数	療養病床数	総病床数	一般病床数	療養病床数	公的病院病床数の比率	偏差値*全国は標準偏差	公的病院病床数の比率	偏差値*全国は標準偏差
全国	440,405	392,862	15,873	1,086,693	494,667	292,291	44.3%	(27%)	5.2%	(22%)
大阪府	20,700	19,628	73	84,525	45,676	21,172	30.1%	45	0.3%	48
豊能	4,401	4,335	0	6,548	3,055	1,526	58.7%	55	0.0%	48
三島	439	439	0	8,241	4,842	1,076	8.3%	37	0.0%	48
北河内	2,024	1,543	0	9,745	6,332	2,017	19.6%	41	0.0%	48
中河内	1,177	1,177	0	5,953	3,189	1,270	27.0%	44	0.0%	48
南河内	954	888	0	7,247	3,827	1,843	18.8%	40	0.0%	48
堺市	1,782	1,651	0	10,245	3,999	3,685	29.2%	44	0.0%	48
泉州	1,668	1,658	0	13,151	2,974	3,880	35.8%	47	0.0%	48
大阪市	8,255	7,937	73	23,395	17,458	5,875	31.3%	45	1.2%	48
出典	地方厚生局指定一覧令和元年12月公表データをもとに株式会社ウェルネスが集計 公的病院の分類は、「新公立病院改革プラン」と「公的医療機関等2025プラン」の策定対象医療機関および開設者が国の医療機関とし、それ以外は民間病院とした。									

資_図表 27-11 全身麻酔件数、分娩件数(年間)

二次医療圏	全身麻酔 件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	分娩件数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	2,217,312		1,745	(819)	923,436		727	(264)
大阪府	167,868	7.6%	1,899	52	59,820	6.5%	677	48
豊能	19,608	12%	1,892	52	8,004	13%	772	52
三島	10,140	6%	1,358	45	6,300	11%	844	54
北河内	20,544	12%	1,765	50	6,420	11%	552	43
中河内	12,132	7%	1,440	46	5,232	9%	621	46
南河内	13,944	8%	2,275	56	3,888	6%	634	47
堺市	12,276	7%	1,463	47	5,280	9%	629	46
泉州	15,744	9%	1,738	50	7,644	13%	844	54
大阪市	63,480	38%	2,359	57	17,052	29%	634	46
出典	平成29年度病床機能報告 ※平成29年6月の月間件数×12				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月 ※平成29年9月の月間件数×12			

資_図表 27-12 医師数(総数、病院医師数、診療所医師数)

二次医療圏	総医師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院 医師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 医師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	311,963		245	(92)	208,127		164	(73)	103,836		82	(24)
大阪府	24,414	7.8%	276	53	16,216	7.8%	183	53	8,198	7.9%	93	55
豊能	3,619	15%	349	61	2,657	16%	256	63	962	12%	93	55
三島	1,967	8%	263	52	1,350	8%	181	52	617	8%	83	50
北河内	2,595	11%	223	48	1,717	11%	148	48	878	11%	75	47
中河内	1,527	6%	181	43	850	5%	101	41	677	8%	80	49
南河内	1,768	7%	288	55	1,312	8%	214	57	456	6%	74	47
堺市	1,859	8%	221	47	1,175	7%	140	47	684	8%	81	50
泉州	1,997	8%	220	47	1,333	8%	147	48	664	8%	73	46
大阪市	9,082	37%	337	60	5,822	36%	216	57	3,260	40%	121	67
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月				平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月			

資_図表 27-13 専門医数(総合内科、小児科、産婦人科)

二次医療圏	総合内科				小児科				産婦人科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	29,158		22.9	(11.4)	14,021		11.0	(4.9)	11,300		8.9	(4.1)
大阪府	2,235	7.7%	25.3	52	975	7.0%	11.0	50	916	8.1%	10.4	54
豊能	382	17%	36.9	62	162	17%	15.6	59	142	16%	13.7	62
三島	184	8%	24.6	51	89	9%	11.9	52	70	8%	9.4	51
北河内	247	11%	21.2	48	104	11%	8.9	46	94	10%	8.1	48
中河内	108	5%	12.8	41	58	6%	6.9	41	66	7%	7.8	47
南河内	153	7%	25.0	52	50	5%	8.2	44	44	5%	7.2	46
堺市	169	8%	20.1	48	63	6%	7.5	43	71	8%	8.5	49
泉州	151	7%	16.7	45	121	12%	13.4	55	87	9%	9.6	52
大阪市	841	38%	31.3	57	328	34%	12.2	52	342	37%	12.7	59
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資_図表 27-14 専門医数(皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科)

二次医療圏	皮膚科				眼科				耳鼻咽喉科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,732		4.5	(2.2)	9,911		7.8	(3.2)	7,569		6.0	(2.7)
大阪府	382	6.7%	4.3	49	890	9.0%	10.1	57	609	8.0%	6.9	53
豊能	58	15%	5.6	55	117	13%	11.3	61	88	14%	8.5	59
三島	35	9%	4.7	51	79	9%	10.6	59	51	8%	6.8	53
北河内	45	12%	3.9	47	99	11%	8.5	52	73	12%	6.3	51
中河内	25	7%	3.0	43	62	7%	7.4	49	42	7%	5.0	46
南河内	31	8%	5.1	52	54	6%	8.8	53	42	7%	6.9	53
堺市	23	6%	2.7	42	68	8%	8.1	51	38	6%	4.5	45
泉州	23	6%	2.5	41	63	7%	7.0	47	48	8%	5.3	48
大阪市	142	37%	5.3	53	348	39%	12.9	66	227	37%	8.4	59
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資_図表 27-15 専門医数(精神科、外科、整形外科)

二次医療圏	精神科				外科				整形外科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	9,675		7.6	(3.7)	21,907		17.2	(7.1)	16,875		13.3	(4.6)
大阪府	657	6.8%	7.4	50	1,686	7.7%	19.1	53	1,315	7.8%	14.9	53
豊能	82	12%	7.9	51	286	17%	27.6	65	160	12%	15.4	55
三島	70	11%	9.4	55	127	8%	17.0	50	109	8%	14.6	53
北河内	90	14%	7.7	50	175	10%	15.0	47	154	12%	13.2	50
中河内	54	8%	6.4	47	119	7%	14.1	46	107	8%	12.7	49
南河内	44	7%	7.2	49	121	7%	19.7	54	93	7%	15.2	54
堺市	77	12%	9.2	54	129	8%	15.4	47	107	8%	12.7	49
泉州	79	12%	8.7	53	140	8%	15.5	47	100	8%	11.0	45
大阪市	161	25%	6.0	46	589	35%	21.9	57	485	37%	18.0	60
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資_図表 27-16 専門医数(泌尿器科、脳神経外科、放射線科)

二次医療圏	泌尿器科				脳神経外科				放射線科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	6,200		4.9	(2.2)	6,967		5.5	(2.5)	5,943		4.7	(3.2)
大阪府	510	8.2%	5.8	54	528	7.6%	6.0	52	533	9.0%	6.0	54
豊能	68	13%	6.6	58	65	12%	6.3	53	73	14%	7.0	58
三島	40	8%	5.4	52	41	8%	5.5	50	39	7%	5.2	52
北河内	65	13%	5.6	53	61	12%	5.2	49	51	10%	4.4	49
中河内	34	7%	4.0	46	40	8%	4.7	47	34	6%	4.0	48
南河内	37	7%	6.0	55	51	10%	8.3	62	39	7%	6.4	55
堺市	30	6%	3.6	44	32	6%	3.8	43	25	5%	3.0	45
泉州	37	7%	4.1	46	38	7%	4.2	45	34	6%	3.8	47
大阪市	199	39%	7.4	62	200	38%	7.4	58	238	45%	8.8	63
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資_図表 27-17 専門医数(麻醉科、病理、救急科)

二次医療圏	麻醉科				病理 専門医数				救急科 専門医数			
	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	7,382		5.8	(3.3)	1,669		1.3	(1.0)	4,262		3.4	(2.1)
大阪府	598	8.1%	6.8	53	120	7.2%	1.4	50	362	8.5%	4.1	54
豊能	101	17%	9.7	62	21	18%	2.0	57	55	15%	5.3	59
三島	51	9%	6.8	53	7	6%	0.9	46	30	8%	4.0	53
北河内	62	10%	5.3	49	14	12%	1.2	49	30	8%	2.6	46
中河内	33	6%	3.9	44	7	6%	0.8	45	24	7%	2.8	48
南河内	42	7%	6.9	53	9	8%	1.5	52	21	6%	3.4	50
堺市	38	6%	4.5	46	9	8%	1.1	48	33	9%	3.9	53
泉州	47	8%	5.2	48	7	6%	0.8	45	43	12%	4.7	57
大阪市	224	37%	8.3	58	46	38%	1.7	54	126	35%	4.7	56
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月											

資_図表 27-18 専門医数(形成外科、リハビリテーション科)

二次医療圏	形成外科				リハビリテ ーション科 専門医数			
	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	2,220		1.7	(1.3)	2,758		2.2	(1.5)
大阪府	197	8.9%	2.2	54	249	9.0%	2.8	54
豊能	21	11%	2.0	52	77	31%	7.4	86
三島	14	7%	1.9	51	30	12%	4.0	63
北河内	24	12%	2.1	52	18	7%	1.5	46
中河内	12	6%	1.4	47	9	4%	1.1	42
南河内	13	7%	2.1	53	16	6%	2.6	53
堺市	16	8%	1.9	51	12	5%	1.4	45
泉州	11	6%	1.2	46	15	6%	1.7	46
大阪市	86	44%	3.2	61	72	29%	2.7	53
出典	平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月							

資_図表 27-19 看護師数(総数、病院看護師数、診療所看護師数)

二次医療圏	総看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所看護師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,145,134		901	(287)	919,205		723	(243)	225,929		178	(71)
大阪府	78,162	6.8%	884	49	64,744	7.0%	732	50	13,418	5.9%	152	46
豊能	8,716	11%	841	48	7,391	11%	713	50	1,325	10%	128	43
三島	6,169	8%	826	47	5,238	8%	701	49	930	7%	125	43
北河内	8,998	12%	773	46	7,471	12%	642	47	1,527	11%	131	43
中河内	5,327	7%	632	41	4,237	7%	503	41	1,090	8%	129	43
南河内	5,366	7%	876	49	4,632	7%	756	51	734	5%	120	42
堺市	7,569	10%	902	50	6,368	10%	759	51	1,201	9%	143	45
泉州	8,498	11%	938	51	7,310	11%	807	53	1,189	9%	131	43
大阪市	27,519	35%	1,023	54	22,096	34%	821	54	5,423	40%	202	53
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月			

資_図表 27-20 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	薬剤師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	139,385		110	(57)	311,289		245	(103)
大阪府	9,385	6.7%	106	49	26,278	8.4%	297	55
豊能	1,055	11%	102	49	3,409	13%	329	58
三島	862	9%	115	51	2,533	10%	339	59
北河内	1,140	12%	98	48	2,581	10%	222	48
中河内	647	7%	77	44	1,537	6%	182	44
南河内	582	6%	95	47	1,408	5%	230	49
堺市	1,015	11%	121	52	1,743	7%	208	46
泉州	1,115	12%	123	52	1,717	7%	190	45
大阪市	2,970	32%	110	50	11,350	43%	422	67
出典	平成29年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成29年10月				平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月			

資_図表 27-21 在宅医療施設数(在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問看護ステーション)

二次医療圏	在宅療養支援診療所	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	在宅療養支援病院	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	訪問看護ステーション	県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	14,484		0.9	(0.4)	1,483		0.1	(0.1)	11,549		0.7	(0.2)
大阪府	1,757	12.1%	1.7	68	124	8.4%	0.1	54	1,042	9.0%	1.0	63
豊能	183	10%	1.5	65	9	7%	0.1	48	107	10%	0.9	58
三島	146	8%	1.7	69	6	5%	0.1	47	57	5%	0.7	49
北河内	149	8%	1.1	55	18	15%	0.1	56	118	11%	0.9	57
中河内	152	9%	1.5	63	8	6%	0.1	48	95	9%	0.9	60
南河内	109	6%	1.4	61	12	10%	0.2	58	77	7%	1.0	62
堺市	159	9%	1.6	66	12	10%	0.1	54	125	12%	1.2	74
泉州	123	7%	1.2	57	20	16%	0.2	64	101	10%	1.0	62
大阪市	736	42%	2.3	81	39	31%	0.1	54	362	35%	1.1	68
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 令和元年12月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 令和元年12月				介護サービス情報公表システム 厚生労働省 令和元年6月			

資_図表 27-22 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	介護保険施設定員(病床)数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差	高齢者住宅定員数	全国シェア県内シェア	75歳以上1,000人当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	1,719,101		105	(17)	1,004,501		62	(12)	714,600		44	(16)
大阪府	111,709	6.5%	106	51	55,050	5.5%	52	43	56,659	7.9%	54	56
豊能	12,642	11%	106	50	6,003	11%	50	41	6,639	12%	56	57
三島	7,681	7%	91	42	3,990	7%	47	39	3,691	7%	44	50
北河内	14,355	13%	105	50	6,643	12%	49	40	7,712	14%	57	58
中河内	10,632	10%	103	49	5,113	9%	50	40	5,519	10%	54	56
南河内	7,033	6%	89	40	4,100	7%	52	42	2,933	5%	37	46
堺市	10,074	9%	100	47	4,681	9%	47	38	5,393	10%	54	56
泉州	9,305	8%	90	41	4,608	8%	45	36	4,697	8%	45	51
大阪市	39,987	36%	123	61	19,912	36%	61	50	20,075	35%	62	61
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資_図表 27-23 老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設(老健)定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	特別養護 老人ホーム (特養) 定員数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護療養 病床数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	368,125		23	(6.0)	584,338		36	(9.9)	52,038		3.2	(3.8)
大阪府	20,509	5.6%	20	45	33,133	5.7%	32	46	1,408	2.7%	1.3	45
豊能	2,197	11%	18	43	3,806	11%	32	46	0	0%	0	42
三島	1,578	8%	19	44	2,412	7%	29	43	0	0%	0	42
北河内	2,668	13%	20	45	3,865	12%	28	42	110	8%	0.8	44
中河内	1,654	8%	16	39	3,194	10%	31	45	265	19%	2.6	48
南河内	1,336	7%	17	41	2,502	8%	32	46	262	19%	3.3	50
堺市	1,773	9%	18	42	2,908	9%	29	43	0	0%	0	42
泉州	1,835	9%	18	42	2,534	8%	24	39	239	17%	2.3	48
大阪市	7,468	36%	23	51	11,912	36%	37	51	532	38%	1.6	46
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-24 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人 ホーム	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	軽費 ホーム	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	グループ ホーム	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	240,971		14.8	(10.9)	23,545		1.4	(2.1)	204,406		12.5	(5.7)
大阪府	17,861	7.4%	17.0	52	1,350	5.7%	1.3	49	10,480	5.1%	10.0	46
豊能	2,434	14%	20.3	55	235	17%	2.0	52	1,020	10%	8.5	43
三島	1,262	7%	15.0	50	213	16%	2.5	55	592	6%	7.0	40
北河内	2,681	15%	19.7	55	274	20%	2.0	53	1,288	12%	9.4	45
中河内	1,068	6%	10.4	46	30	2%	0.3	45	968	9%	9.4	45
南河内	877	5%	11.1	47	158	12%	2.0	53	658	6%	8.4	43
堺市	1,131	6%	11.3	47	170	13%	1.7	51	1,202	11%	12.0	49
泉州	516	3%	5.0	41	220	16%	2.1	53	727	7%	7.0	40
大阪市	7,892	44%	24.3	59	50	4%	0.2	44	4,025	38%	12.4	50
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウエルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-25 サービス付き高齢者専用賃貸住宅(サ高住) 定員数

二次医療圏	サ高住 (全施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	サ高住(特定施設)				サ高住(非特定施設)			
					サ高住 (特定 施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	サ高住 (非特定 施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	245,678		15.1	(7.4)	25,821		1.6	(1.9)	219,857		13.5	(7.1)
大阪府	26,968	11.0%	25.7	64	3,205	12.4%	3.1	58	23,763	10.8%	22.6	63
豊能	2,950	11%	24.7	63	0	0%	0	42	2,950	12%	24.7	66
三島	1,624	6%	19.3	56	60	2%	0.7	46	1,564	7%	18.6	57
北河内	3,469	13%	25.4	64	262	8%	1.9	52	3,207	13%	23.5	64
中河内	3,453	13%	33.6	75	241	8%	2.3	54	3,212	14%	31.2	75
南河内	1,240	5%	15.7	51	0	0%	0	42	1,240	5%	15.7	53
堺市	2,890	11%	28.8	69	91	3%	0.9	47	2,799	12%	27.9	70
泉州	3,234	12%	31.2	72	0	0%	0	42	3,234	14%	31.2	75
大阪市	8,108	30%	25.0	63	2,551	80%	7.9	82	5,557	23%	17.1	55
出典	サ高住(特定施設)とサ高住(非特定施設)の合計				令和元年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの				令和元年6月 国土交通省・厚生労働省 サービス付き高齢者向け住宅 情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの			

資_図表 27-26 介護サービス従事看護師数(介護施設、訪問看護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サー ビス従事 看護師数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (施設)				看護師数 (訪問)			
					看護師数 (施設)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (訪問)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	174,893		10.7	(2.2)	119,205		7.3	(1.9)	55,688		3.4	(1.2)
大阪府	11,746	6.7%	11.2	52	6,042	5.1%	5.8	42	5,704	10.2%	5.4	67
豊能	1,238	11%	10.3	48	627	10%	5.2	39	611	11%	5.1	65
三島	772	7%	9.2	43	430	7%	5.1	38	342	6%	4.1	56
北河内	1,382	12%	10.1	47	785	13%	5.8	42	597	10%	4.4	58
中河内	1,004	9%	9.8	46	527	9%	5.1	38	477	8%	4.6	61
南河内	933	8%	11.8	55	500	8%	6.3	45	434	8%	5.5	68
堺市	1,190	10%	11.9	55	521	9%	5.2	39	669	12%	6.7	78
泉州	1,055	9%	10.2	48	519	9%	5.0	38	536	9%	5.2	65
大阪市	4,171	36%	12.9	60	2,133	35%	6.6	46	2,037	36%	6.3	75
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-27 介護サービス従事介護職員数(介護施設等、在宅介護)(常勤換算)

二次医療圏	介護サービス従事 介護職員 数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (介護施設 等)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員 数 (在宅)	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,513,115		93	(11.3)	1,294,087		79	(10.6)	219,028		13.4	(5.3)
大阪府	103,692	6.9%	99	55	73,865	5.7%	70	42	29,827	13.6%	28.4	78
豊能	11,000	11%	92	49	8,398	11%	70	41	2,603	9%	21.8	66
三島	6,570	6%	78	37	5,236	7%	62	34	1,334	4%	15.8	55
北河内	13,066	13%	96	53	9,789	13%	72	43	3,278	11%	24.0	70
中河内	9,425	9%	92	49	6,435	9%	63	34	2,990	10%	29.1	80
南河内	7,183	7%	91	49	5,705	8%	72	44	1,478	5%	18.8	60
堺市	10,285	10%	103	59	7,131	10%	71	42	3,153	11%	31.4	84
泉州	8,975	9%	87	45	6,135	8%	59	31	2,840	10%	27.4	76
大阪市	37,188	36%	115	69	25,037	34%	77	48	12,151	41%	37.5	95
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-28 在宅医療・介護サービス利用者数(月間)

二次医療圏	在宅医療 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問介護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,228,040		75	(35)	552,189		34	(14)	1,116,943		68	(24)
大阪府	119,787	9.8%	114	61	58,101	10.5%	55	65	129,113	11.6%	123	73
豊能	13,065	11%	109	60	7,117	12%	59	68	13,182	10%	110	68
三島	6,870	6%	82	52	3,642	6%	43	57	5,960	5%	71	51
北河内	9,898	8%	73	49	6,832	12%	50	62	15,371	12%	113	69
中河内	10,534	9%	102	58	4,179	7%	41	55	12,205	9%	119	71
南河内	8,480	7%	108	59	4,827	8%	61	70	7,543	6%	96	62
堺市	12,278	10%	122	63	6,786	12%	68	74	13,507	10%	135	78
泉州	9,556	8%	92	55	4,748	8%	46	59	13,897	11%	134	78
大阪市	49,106	41%	151	72	19,970	34%	62	70	47,448	37%	146	83
出典	令和元年6月 厚生労働省 介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 27-29 総人口の推移と医療需要の増減(医療費ベース)

二次医療圏	地域タイプ	総人口(2005→2015→2025)					医療需要推移(医療費ベース) (2005→2015→2025)		
		2005年	2015年	2005→ 15年 増減率	2025年 (推計)	2005→ 25年 増減率	2005→ 15年 増減率	2015→ 25年 増減率	2005→ 25年 増減率
全国		127,767,994	127,094,745	-1%	122,544,102	-4%	13%	5%	18%
大阪府		8,817,166	8,839,469	0%	8,526,202	-3%	17%	5%	22%
豊能	大都市型	1,006,084	1,036,617	3%	1,047,352	4%	20%	10%	32%
三島	大都市型	733,848	746,852	2%	728,795	-1%	20%	8%	29%
北河内	大都市型	1,186,521	1,164,015	-2%	1,077,088	-9%	20%	5%	25%
中河内	大都市型	864,342	842,696	-3%	792,264	-8%	16%	1%	17%
南河内	大都市型	649,601	612,886	-6%	554,175	-15%	13%	3%	16%
堺市	大都市型	830,966	839,310	1%	812,527	-2%	19%	6%	25%
泉州	大都市型	916,993	905,908	-1%	850,739	-7%	14%	3%	18%
大阪市	大都市型	2,628,811	2,691,185	2%	2,663,262	1%	15%	4%	20%
出典	<人口(2005年)>平成17年国勢調査 都道府県・市区町村別統計表(男女別人口,年齢(3区分)・割合,就業者数,居間人口など) <人口(2015年)>平成27年国勢調査 人口等基本集計 平成27年10月 <人口(2025年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成30年3月 ※医療需要は(0~64歳人口)+(65~74歳人口)×3.0+(75歳以上人口)×4.9で算出。								

資_図表 27-30 病院数の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	9,077	7.1	(3.9)	8,372	6.6	(3.9)	-705	-8%
大阪府	555	6.3	48	517	5.8	48	-38	-7%
豊能	46	4.6	43	47	4.5	45	1	2%
三島	38	5.2	45	38	5.1	46	0	0%
北河内	61	5.1	45	61	5.2	47	0	0%
中河内	43	5.0	44	38	4.5	45	-5	-12%
南河内	39	6.0	47	38	6.2	49	-1	-3%
堺市	47	5.7	46	44	5.2	47	-3	-6%
泉州	81	8.8	54	76	8.4	55	-5	-6%
大阪市	200	7.6	51	175	6.5	50	-25	-13%
出典	<病院数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <病院数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

資_図表 27-31 診療所数の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	97,051	76	(20)	102,105	80	(19)	5,054	5%
大阪府	8,118	92	58	8,481	96	58	363	4%
豊能	914	91	57	977	94	57	63	7%
三島	539	73	49	605	81	50	66	12%
北河内	895	75	50	901	77	48	6	1%
中河内	702	81	53	664	79	49	-38	-5%
南河内	437	67	46	462	75	47	25	6%
堺市	709	85	55	740	88	54	31	4%
泉州	607	66	45	668	74	47	61	10%
大阪市	3,315	126	75	3,464	129	75	149	4%
出典	<診療所数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <診療所数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

資_図表 27-32 医師数の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	270,371	212	(84)	311,963	245	(92)	41,592	15%
大阪府	21,563	245	54	24,414	276	53	2,851	13%
豊能	3,281	326	64	3,619	349	61	338	10%
三島	1,643	224	51	1,967	263	52	324	20%
北河内	2,139	180	46	2,595	223	48	456	21%
中河内	1,410	163	44	1,527	181	43	117	8%
南河内	1,513	233	53	1,768	288	55	255	17%
堺市	1,541	185	47	1,859	221	47	318	21%
泉州	1,704	186	47	1,997	220	47	293	17%
大阪市	8,332	317	63	9,082	337	60	750	9%
出典	<総医師数2004年>平成16年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成16年12月 <総医師数2018年>平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成30年12月							

資_図表 27-33 総病床数(精神科を含む)の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,812,554	142	(56)	1,641,407	129	(53)	-171,147	-9%
大阪府	116,330	132	48	108,290	123	49	-8,040	-7%
豊能	10,446	104	43	11,318	109	46	872	8%
三島	9,283	126	47	8,978	120	48	-305	-3%
北河内	13,300	112	45	12,300	106	46	-1,000	-8%
中河内	8,262	96	42	7,601	90	43	-661	-8%
南河内	8,970	138	49	8,401	137	51	-569	-6%
堺市	13,942	168	55	12,233	146	53	-1,709	-12%
泉州	15,563	170	55	14,994	166	57	-569	-4%
大阪市	36,564	139	50	32,465	121	48	-4,099	-11%
出典	<総病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <総病床数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

資_図表 27-34 一般病床数(病院+診療所)の推移

二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	1,068,821	84	(28)	977,056	77	(26)	-91,765	-9%
大阪府	71,070	81	49	67,458	76	50	-3,612	-5%
豊能	7,064	70	45	7,603	73	49	539	8%
三島	5,444	74	47	5,514	74	49	70	1%
北河内	8,106	68	45	8,259	71	48	153	2%
中河内	5,219	60	42	4,533	54	41	-686	-13%
南河内	5,568	86	51	4,873	80	51	-695	-12%
堺市	6,298	76	47	5,813	69	47	-485	-8%
泉州	5,221	57	41	4,892	54	41	-329	-6%
大阪市	28,150	107	58	25,971	97	58	-2,179	-8%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

資_図表 27-35 療養病床数(病院+診療所)の推移

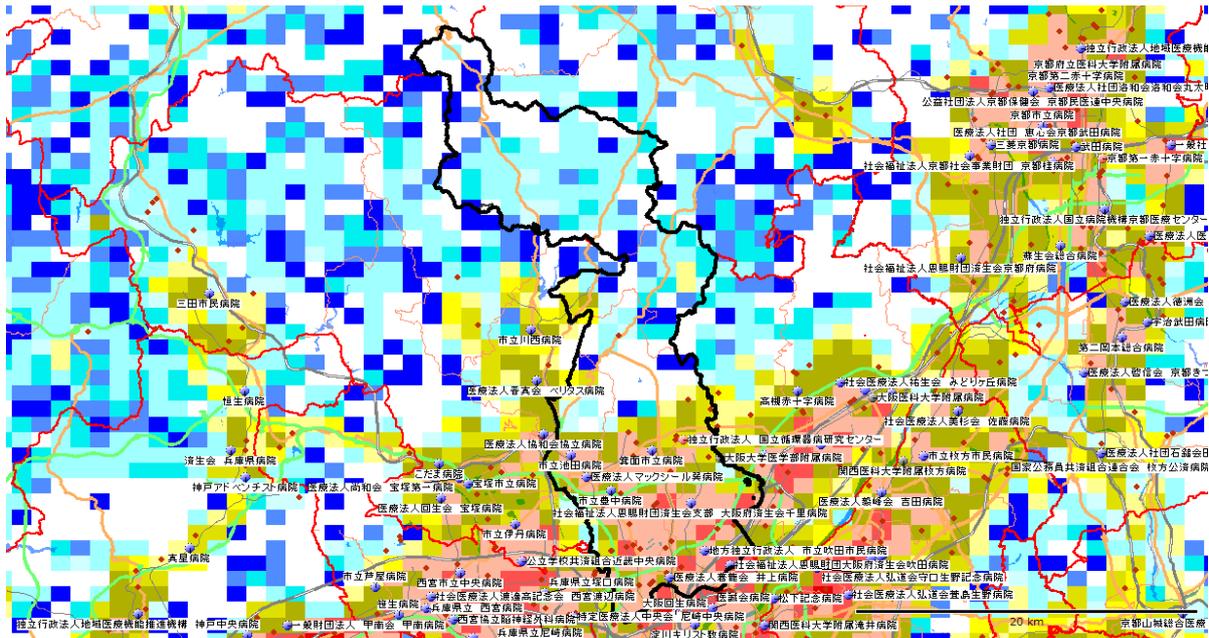
二次医療圏	2004年			2018年			2004→2018増減	
	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率
全国	373,823	32	(18)	328,015	20	(11)	-45,808	-12%
大阪府	23,571	36	52	21,835	21	51	-1,736	-7%
豊能	1,022	15	40	1,576	13	44	554	54%
三島	1,213	25	46	1,137	13	44	-76	-6%
北河内	2,161	29	48	2,071	15	46	-90	-4%
中河内	1,180	19	43	1,328	13	44	148	13%
南河内	1,837	37	53	1,822	23	53	-15	-1%
堺市	4,023	66	69	3,700	37	65	-323	-8%
泉州	4,102	61	66	4,014	39	67	-88	-2%
大阪市	8,033	37	53	6,187	19	49	-1,846	-23%
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2018年>平成30年医療施設(静態・動態)調査 厚生労働省 平成30年10月							

27-1. とよの 豊能医療圏

構成市区町村 [豊中市](#) [池田市](#) [吹田市](#) [箕面市](#)
[豊能町](#) [能勢町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



(豊能医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 豊能(豊中市)は、総人口約1,037千人(2015年)、面積276km²、人口密度は3,761人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 豊能の総人口は2025年に1,047千人へと増加し(2015年比+1%)、2040年に996千人へと減少する(2025年比-5%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の120千人が、2025年にかけて180千人へと増加し(2015年比+50%)、2040年には186千人へと増加する(2025年比+3%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 豊能の一人当たり医療費(国保)は369千円(偏差値53)、介護給付費は253千円(偏差値49)であり、医療費はやや高く、介護給付費は全国平均レベルである。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 豊能の一人当たり急性期医療密度指数は1.09、一人当たり慢性期医療密度指数は0.57で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり少ない。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が61(病院医師数63、診療所医師数55)と、総医師数、病院医師数ともに多い。総看護師数の偏差値は48と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は51で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は52と全国平均レベルである。豊能には、年間全身麻酔件数が2000例以上の市立豊中病院(Ⅲ群)、大阪大学医学部附属病院(Ⅰ群・救命)、1000例以上の市立池田病院(Ⅲ群)、箕面市立病院(Ⅲ群)、大阪府済生会吹田病院(Ⅲ群)、市立吹田市民病院(Ⅲ群)、大阪府済生会千里病院(Ⅲ群・救命)、国立循環器病研究センター(Ⅱ群)、500例以上の関西メディカル病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は45と療養病床数はやや少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値49と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値55とやや多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は47で精神病床数はやや少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は57で診療所数は多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 豊能の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、12,642人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が6,003床(偏差値41)、高齢者住宅等が6,639床(偏差値57)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、8,398人(75歳以上1,000人当たりの偏差値41)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設43、特別養護老人ホーム46、介護療養型医療施設なし(偏差値42)、有料老人ホーム55、軽費ホーム52、グループホーム43、サ高住63である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値65と多く、在宅療養支援病院は偏差値48と全国平均レベルである。また、訪問看護ステーションは偏差値58と多い。介護職員(在宅)の合計は、2,603人(75歳以上1,000人当たりの偏差値66)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-45%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(豊能医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

豊能医療圏の総人口は、2005年1,006,084人が、2015年に1,036,617人と3%増加し、2025年の人口が1,047,352人と予測され、2005年→2025年の間に4%程度の増加が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に20%増加し、2015年から2025年にかけて10%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

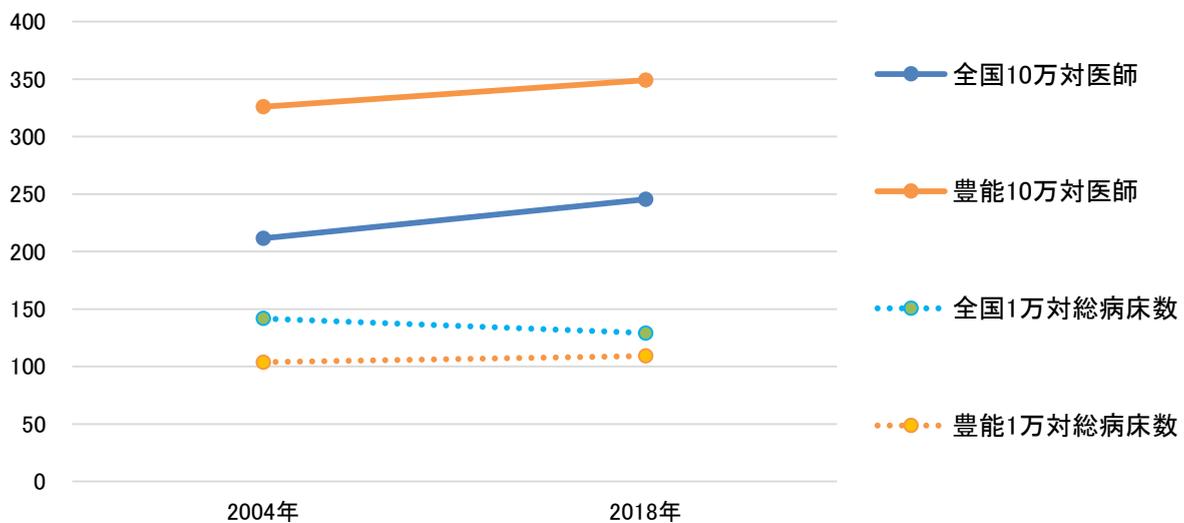
2004年の病院数が46(人口10万人当たり4.6病院(全国平均7.1)偏差値43)であったが、2018年に47(人口10万人当たり4.5病院(全国平均6.6)偏差値45)となり、14年間で1病院が増加した。

2004年の診療所数が914(人口10万人当たり91診療所(全国平均76)偏差値57)であったが、2018年に977(人口10万人当たり94診療所(全国平均80)偏差値57)と、63診療所が増加した。

2004年の総病床数が10,446床(人口1万人当たり104(全国平均142)偏差値43)であったが、2018年に11,318床(人口1万人当たり109(全国平均129)偏差値46)と、872床の増加、率にして8%の増加(全国平均9%の減少)が見られた。

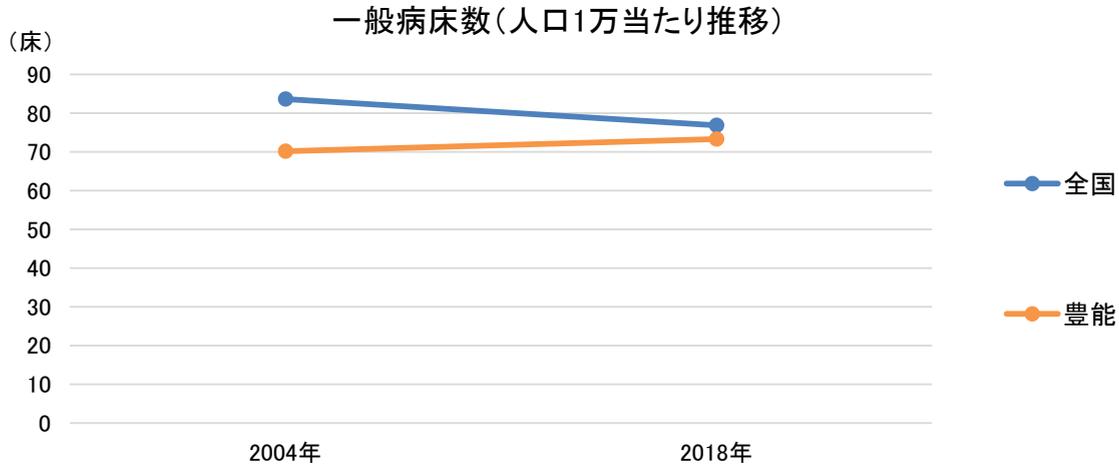
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が3,281人(人口10万人当たり326人(全国平均212人)偏差値64)であったが、2018年に3,619人(人口10万人当たり349人(全国平均245人)偏差値61)と、338人の増加、率にして10%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



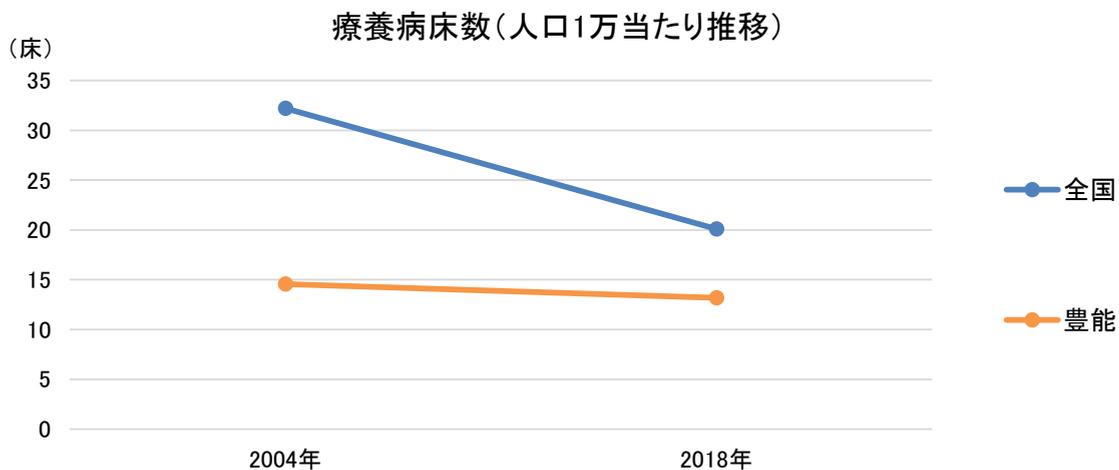
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が7,064床(人口1万人当たり70(全国平均84)偏差値45)であったが、2018年に7,603床(人口1万人当たり73(全国平均77)偏差値49)と、539床の増加、率にして8%の増加(全国平均9%の減少)が見られた。



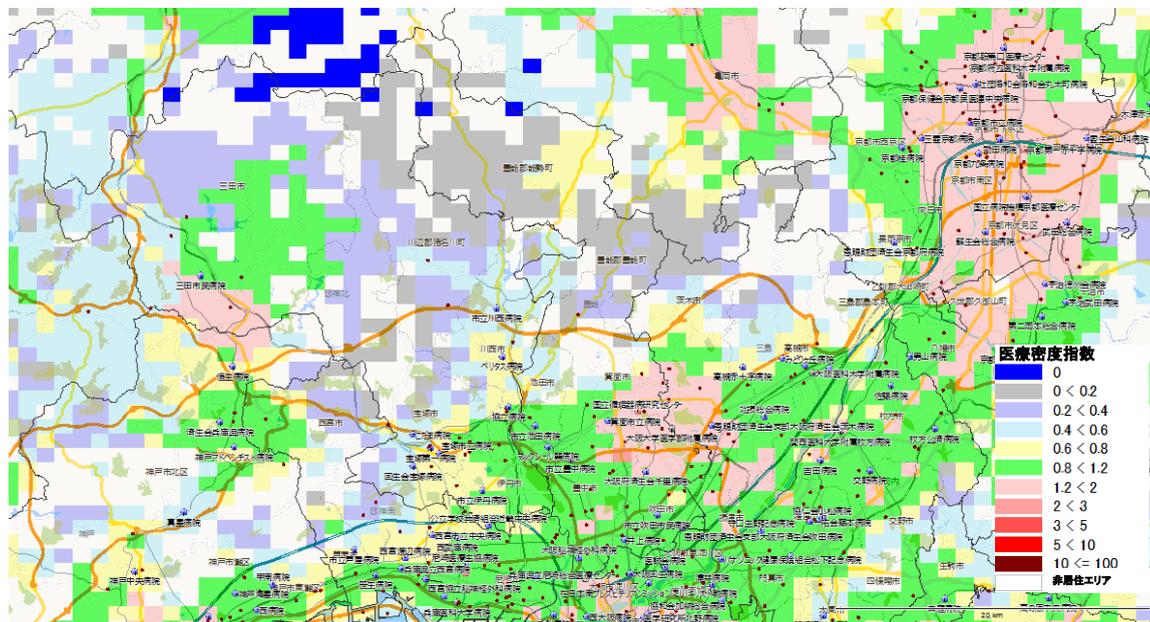
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,022床(75歳以上1,000人当たり15(全国平均32)偏差値40)であったが、2018年に1,576床(75歳以上1,000人当たり13(全国平均20)偏差値44)と、554床の増加、率にして54%の増加(全国平均12%の減少)が見られた。



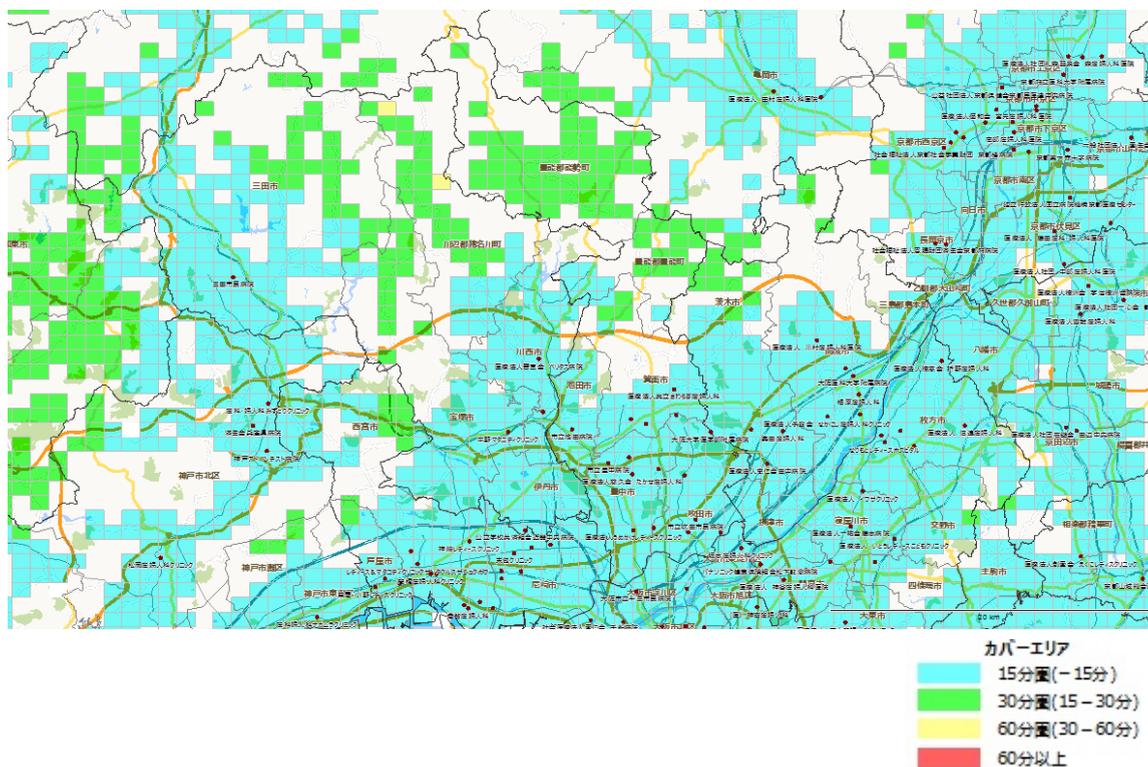
(豊能医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-1-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-1-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

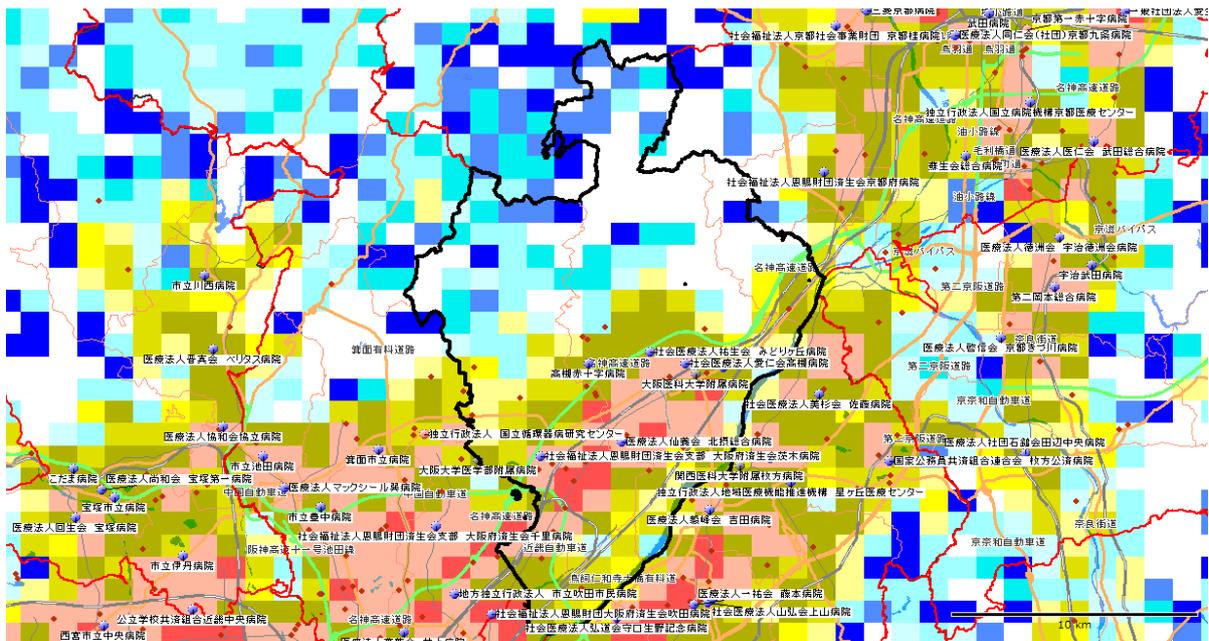


27-2. みしま 三島医療圏

構成市区町村 [高槻市](#) [茨木市](#) [摂津市](#) [島本町](#)

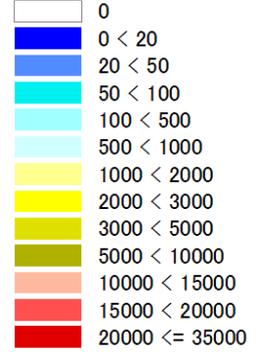
※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPC病院



(三島医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 三島(高槻市)は、総人口約747千人(2015年)、面積213km²、人口密度は3,499人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 三島の総人口は2025年に729千人へと減少し(2015年比-2%)、2040年に664千人へと減少する(2025年比-9%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の84千人が、2025年にかけて131千人へと増加し(2015年比+56%)、2040年には125千人へと減少する(2025年比-5%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 三島の一人当たり医療費(国保)は388千円(偏差値57)、介護給付費は213千円(偏差値38)であり、医療費は高いが、介護給付費は低い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 三島の一人当たり急性期医療密度指数は1、一人当たり慢性期医療密度指数は0.62で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は少ない。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が52(病院医師数52、診療所医師数50)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は47とやや少ない。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は50で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は45とやや少ない。三島には、年間全身麻酔件数が2000例以上の第一東和会病院(Ⅲ群)、高槻病院(Ⅲ群)、大阪医科大学附属病院(I群)、1000例以上の北摂総合病院(Ⅲ群)、高槻赤十字病院(Ⅲ群)、500例以上の大阪府済生会茨木病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は45と療養病床数はやや少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値51と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値54とやや多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は52で精神病床数は全国平均レベルである。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は50で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 三島の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、7,681人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が3,990床(偏差値39)、高齢者住宅等が3,691床(偏差値50)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、5,236人(75歳以上1,000人当たりの偏差値34)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設44、特別養護老人ホーム43、介護療養型医療施設なし(偏差値42)、有料老人ホーム50、軽費ホーム55、グループホーム40、サ高住56である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値69と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値47とやや少ない。また、訪問看護ステーションは偏差値49と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、1,334人(75歳以上1,000人当たりの偏差値55)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-74%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(三島医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

三島医療圏の総人口は、2005年733,848人が、2015年に746,852人と2%増加し、2025年の人口が728,795人と予測され、2005年→2025年の間に1%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に20%増加し、2015年から2025年にかけて8%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

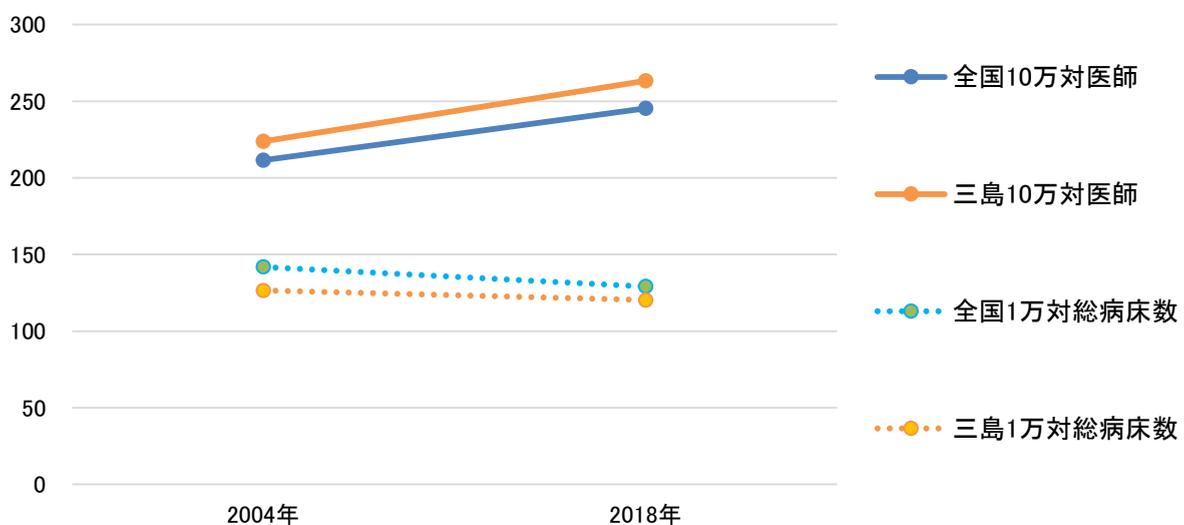
2004年の病院数が38(人口10万人当たり5.2病院(全国平均7.1)偏差値45)であったが、2018年に38(人口10万人当たり5.1病院(全国平均6.6)偏差値46)となり、14年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が539(人口10万人当たり73診療所(全国平均76)偏差値49)であったが、2018年に605(人口10万人当たり81診療所(全国平均80)偏差値50)と、66診療所が増加した。

2004年の総病床数が9,283床(人口1万人当たり126(全国平均142)偏差値47)であったが、2018年に8,978床(人口1万人当たり120(全国平均129)偏差値48)と、305床の減少、率にして3%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

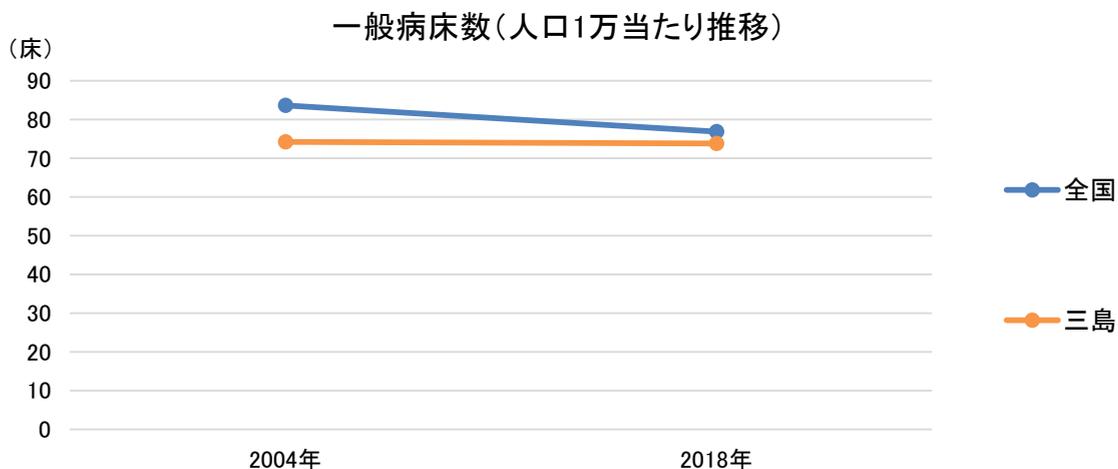
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,643人(人口10万人当たり224人(全国平均212人)偏差値51)であったが、2018年に1,967人(人口10万人当たり263人(全国平均245人)偏差値52)と、324人の増加、率にして20%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



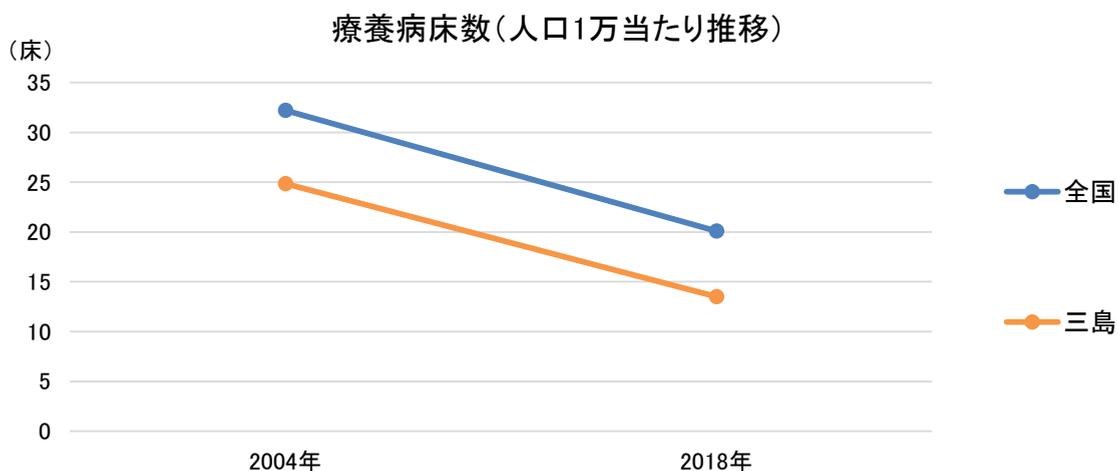
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が5,444床(人口1万人当たり74(全国平均84)偏差値47)であったが、2018年に5,514床(人口1万人当たり74(全国平均77)偏差値49)と、70床の増加、率にして1%の増加(全国平均9%の減少)が見られた。



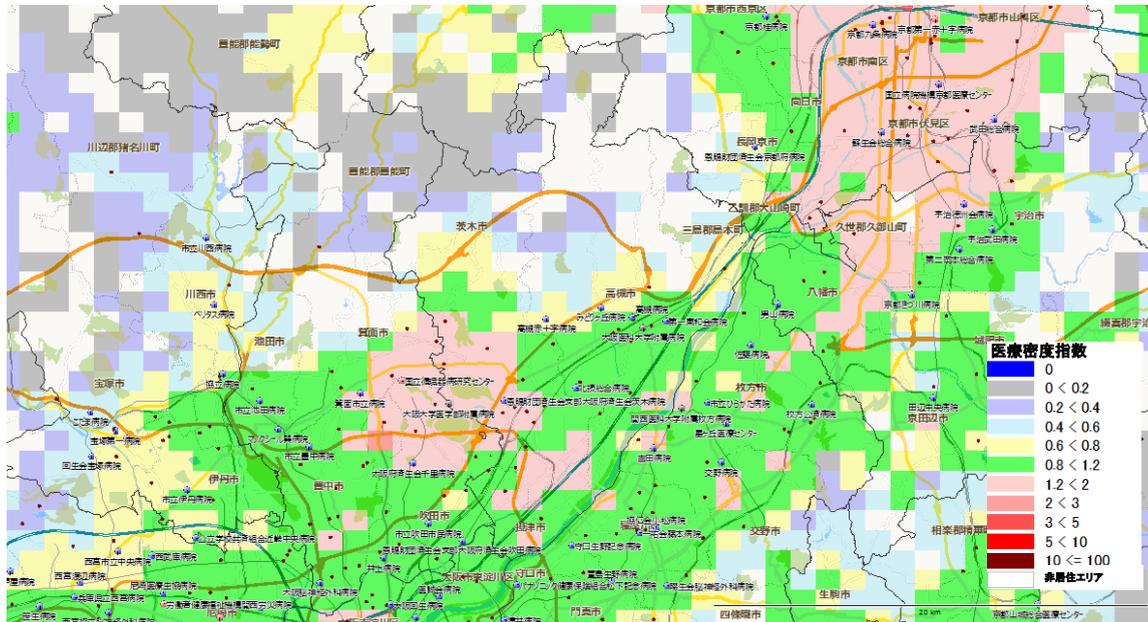
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,213床(75歳以上1,000人当たり25(全国平均32)偏差値46)であったが、2018年に1,137床(75歳以上1,000人当たり13(全国平均20)偏差値44)と、76床の減少、率にして6%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



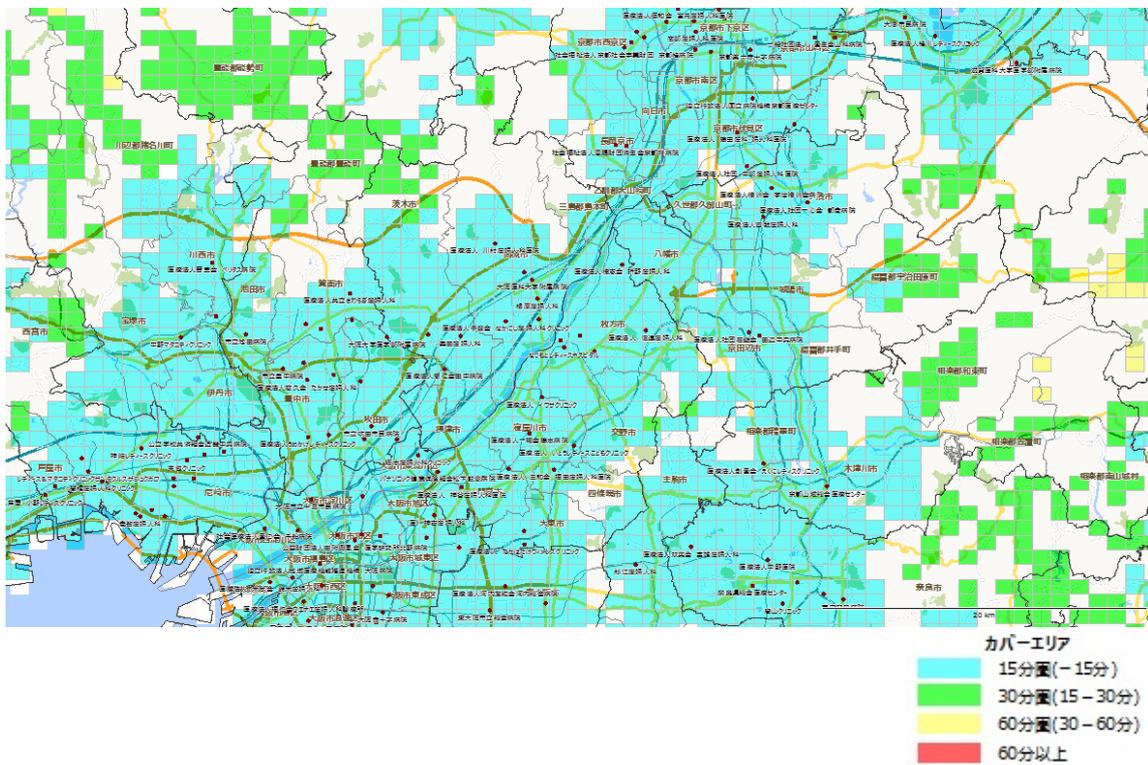
(三島医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-2-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-2-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

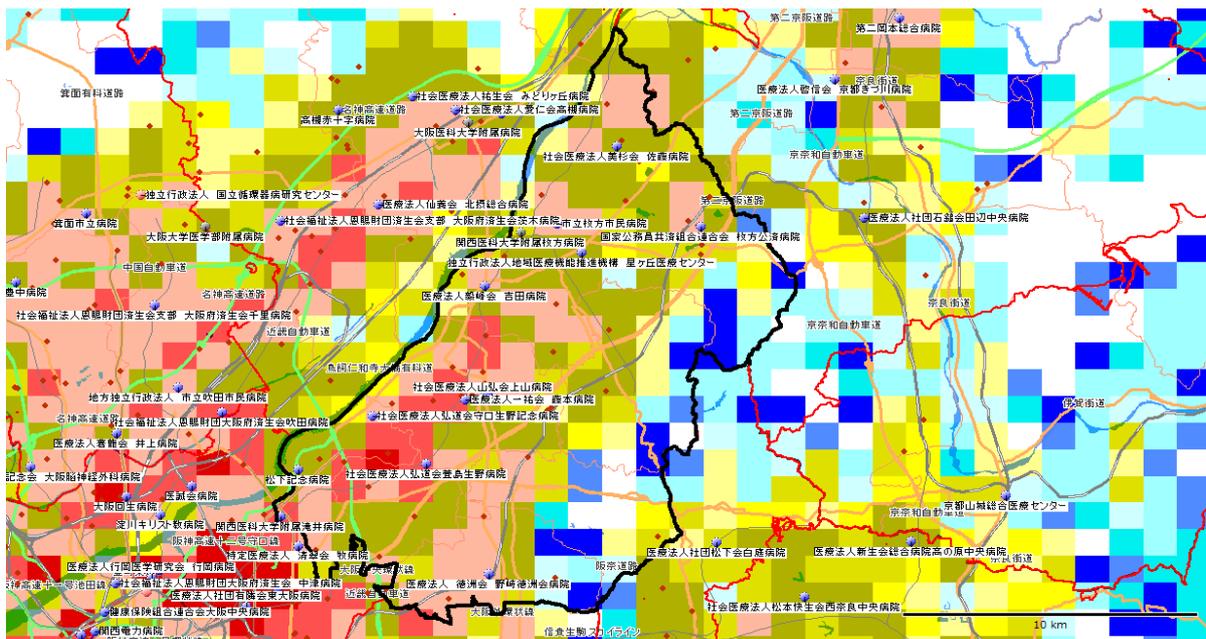


27-3. きたかわち 北河内医療圏

構成市区町村 [守口市](#) [枚方市](#) [寝屋川市](#) [大東市](#)
[門真市](#) [四條畷市](#) [交野市](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口(1平方キロ)



DPC病院



(北河内医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 北河内(守口市)は、総人口約1,164千人(2015年)、面積177km²、人口密度は6,564人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 北河内の総人口は2025年に1,077千人へと減少し(2015年比-7%)、2040年に894千人へと減少する(2025年比-17%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の136千人が、2025年にかけて213千人へと増加し(2015年比+57%)、2040年には195千人へと減少する(2025年比-8%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 北河内の一人当たり医療費(国保)は369千円(偏差値53)、介護給付費は249千円(偏差値48)であり、医療費はやや高く、介護給付費は全国平均レベルである。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 北河内の一人当たり急性期医療密度指数は1、一人当たり慢性期医療密度指数は0.68で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療は少ない。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が48(病院医師数48、診療所医師数47)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は46とやや少ない。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は49で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は50と全国平均レベルである。北河内には、年間全身麻酔件数が2000例以上の関西医科大学総合医療センター(Ⅲ群・救命)、関西医科大学附属病院(Ⅰ群・救命)、1000例以上のJCHO星ヶ丘医療センター(Ⅲ群)、松下記念病院(Ⅲ群)、市立ひらかた病院(Ⅲ群)、500例以上の枚方公済病院(Ⅲ群)、啜生会脳神経外科病院(Ⅲ群)、交野病院(Ⅲ群)、守口生野記念病院(Ⅲ群)、佐藤病院(Ⅲ群)、野崎徳洲会病院(Ⅲ群)、関西医科大学香里病院(Ⅲ群)、小松病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は46と療養病床数はやや少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値48と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値51と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は45で精神病床数はやや少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は48で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 北河内の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、14,355人(75歳以上1,000人当たりの偏差値50)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が6,643床(偏差値40)、高齢者住宅等が7,712床(偏差値58)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、9,789人(75歳以上1,000人当たりの偏差値43)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設45、特別養護老人ホーム42、介護療養型医療施設44、有料老人ホーム55、軽費ホーム53、グループホーム45、サ高住64である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値55とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値56と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値57と多い。介護職員(在宅)の合計は、3,278人(75歳以上1,000人当たりの偏差値70)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-57%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(北河内医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

北河内医療圏の総人口は、2005年1,186,521人が、2015年に1,164,015人と2%減少し、2025年の人口が1,077,088人と予測され、2005年→2025年の間に9%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に20%増加し、2015年から2025年にかけて5%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

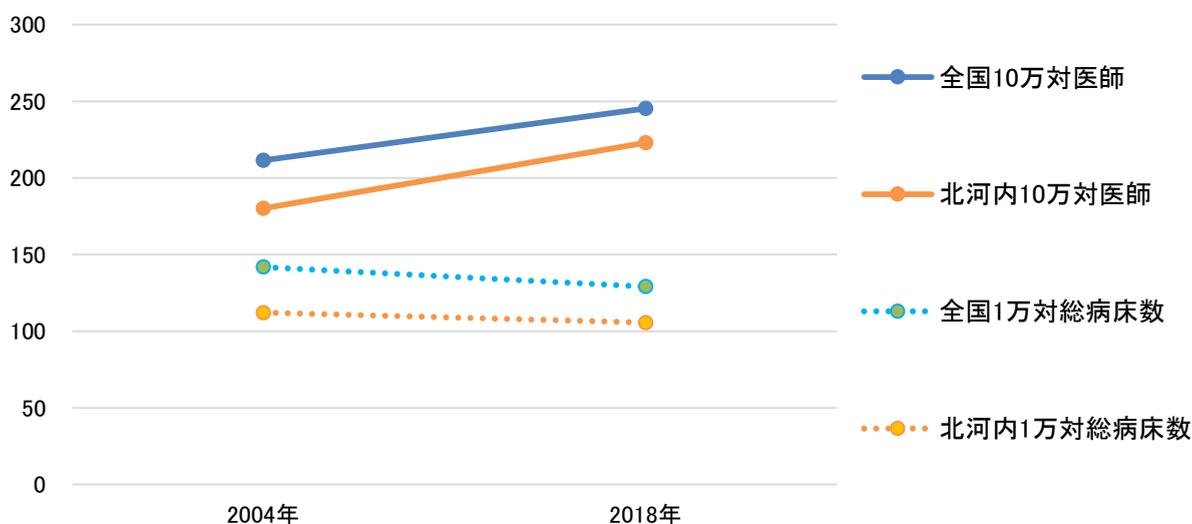
2004年の病院数が61(人口10万人当たり5.1病院(全国平均7.1)偏差値45)であったが、2018年に61(人口10万人当たり5.2病院(全国平均6.6)偏差値47)となり、14年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が895(人口10万人当たり75診療所(全国平均76)偏差値50)であったが、2018年に901(人口10万人当たり77診療所(全国平均80)偏差値48)と、6診療所が増加した。

2004年の総病床数が13,300床(人口1万人当たり112(全国平均142)偏差値45)であったが、2018年に12,300床(人口1万人当たり106(全国平均129)偏差値46)と、1,000床の減少、率にして8%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

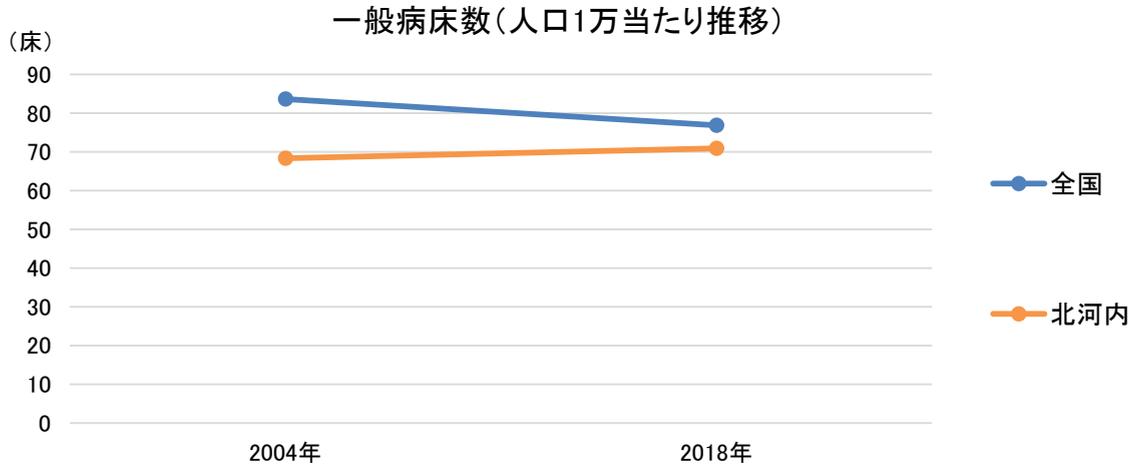
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が2,139人(人口10万人当たり180人(全国平均212人)偏差値46)であったが、2018年に2,595人(人口10万人当たり223人(全国平均245人)偏差値48)と、456人の増加、率にして21%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



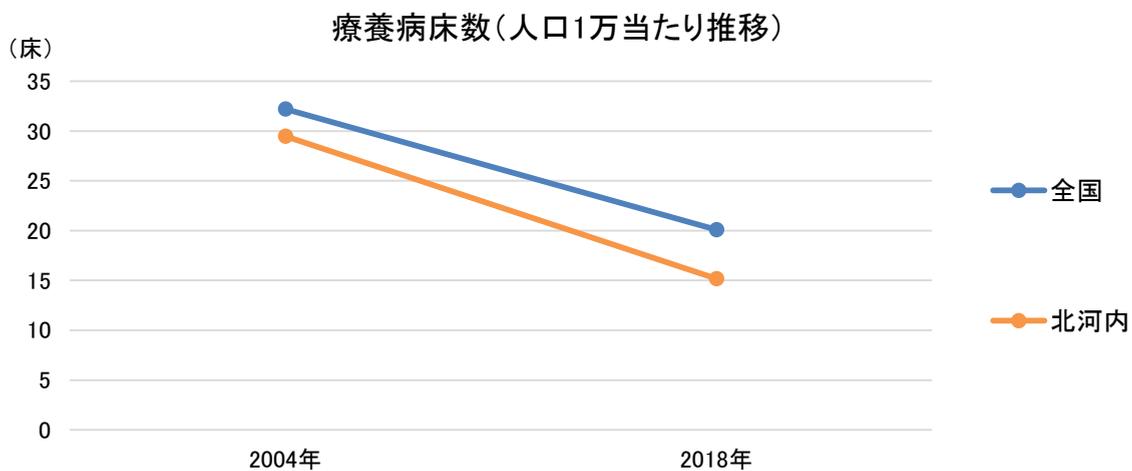
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が8,106床(人口1万人当たり68(全国平均84)偏差値45)であったが、2018年に8,259床(人口1万人当たり71(全国平均77)偏差値48)と、153床の増加、率にして2%の増加(全国平均9%の減少)が見られた。



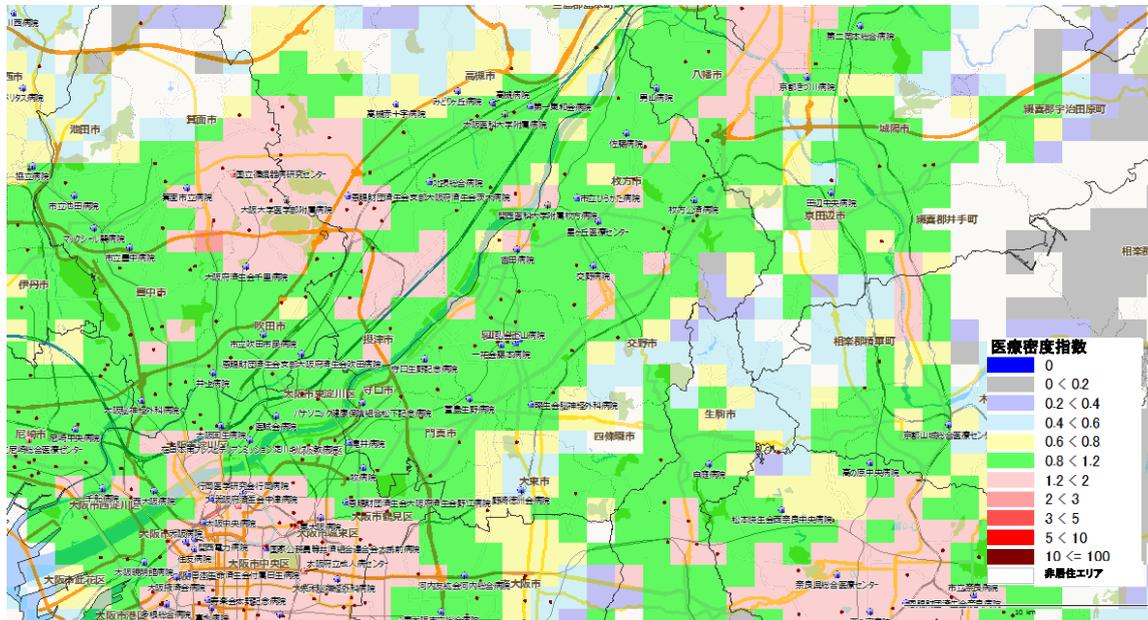
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が2,161床(75歳以上1,000人当たり29(全国平均32)偏差値48)であったが、2018年に2,071床(75歳以上1,000人当たり15(全国平均20)偏差値46)と、90床の減少、率にして4%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



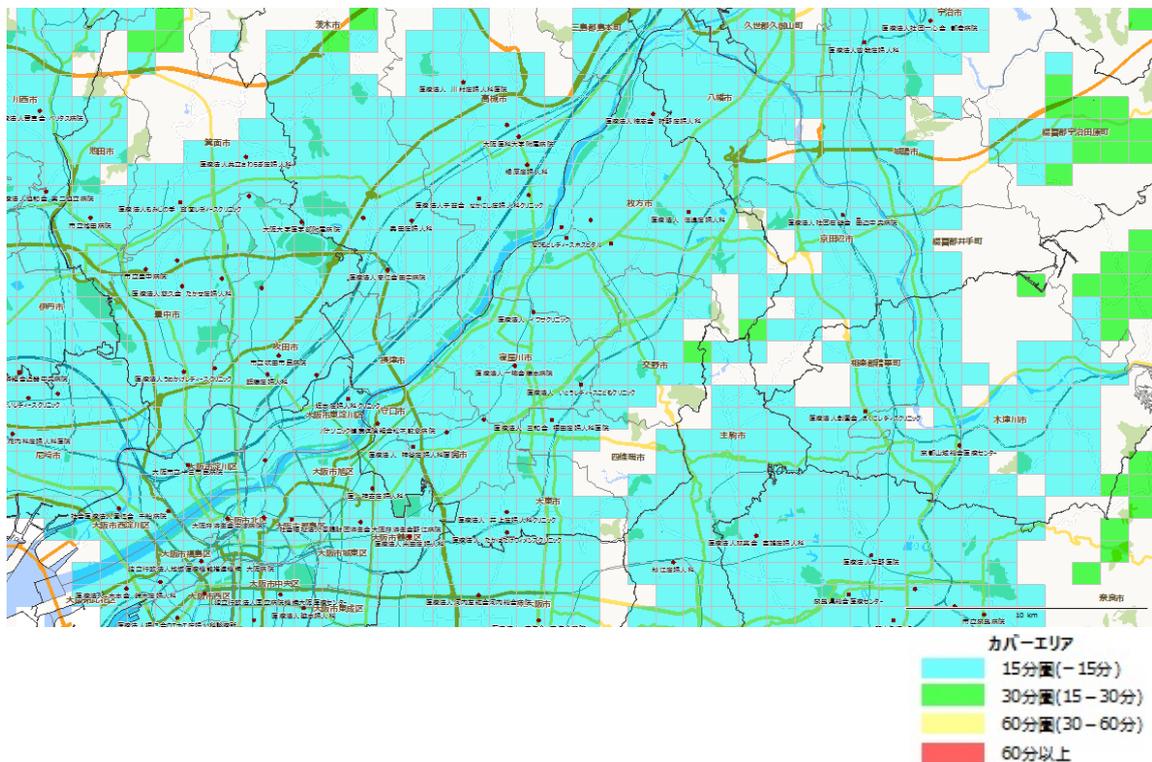
(北河内医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-3-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-3-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）

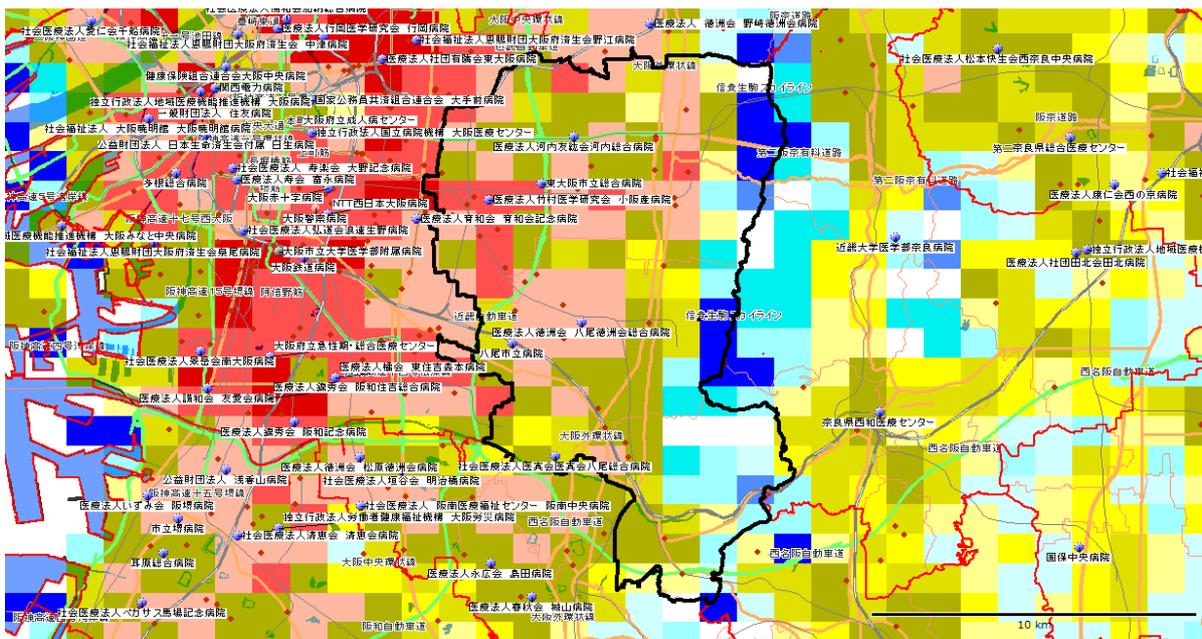


27-4. なかかわち 中河内医療圏

構成市区町村 [八尾市](#) [柏原市](#) [東大阪市](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
出所: 国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



(中河内医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 中河内(八尾市)は、総人口約843千人(2015年)、面積129km²、人口密度は6,541人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 中河内の総人口は2025年に792千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年に689千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の103千人が、2025年にかけて143千人へと増加し(2015年比+39%)、2040年には124千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 中河内の一人当たり医療費(国保)は371千円(偏差値53)、介護給付費は274千円(偏差値56)であり、医療費はやや高く、介護給付費は高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 中河内の一人当たり急性期医療密度指数は0.87、一人当たり慢性期医療密度指数は1.15で、急性期の医療も慢性期の医療も全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が43(病院医師数41、診療所医師数49)と、総医師数、病院医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は41と少ない。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は42で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は46とやや少ない。中河内には、年間全身麻酔件数が2000例以上の八尾市立病院(Ⅲ群)、市立東大阪医療センター(Ⅲ群)、1000例以上の八尾徳洲会総合病院(Ⅲ群)、500例以上の医真会八尾総合病院(Ⅲ群)、河内総合病院(Ⅲ群)、若草第一病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は45と療養病床数はやや少ない。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値44と少なく、回復期病床数は偏差値46とやや少ない。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は47で精神病床数はやや少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は49で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 中河内の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、10,632人(75歳以上1,000人当たりの偏差値49)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が5,113床(偏差値40)、高齢者住宅等が5,519床(偏差値56)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6,435人(75歳以上1,000人当たりの偏差値34)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設39、特別養護老人ホーム45、介護療養型医療施設48、有料老人ホーム46、軽費ホーム45、グループホーム45、サ高住75である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値63と多く、在宅療養支援病院は偏差値48と全国平均レベルである。また、訪問看護ステーションは偏差値60と多い。介護職員(在宅)の合計は、2,990人(75歳以上1,000人当たりの偏差値80)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-64%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(中河内医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

中河内医療圏の総人口は、2005年864,342人が、2015年に842,696人と3%減少し、2025年の人口が792,264人と予測され、2005年→2025年の間に8%程度の減少が予測されている。

医療の需要（医療費ベース）は、2005年から2015年に16%増加し、2015年から2025年にかけて1%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

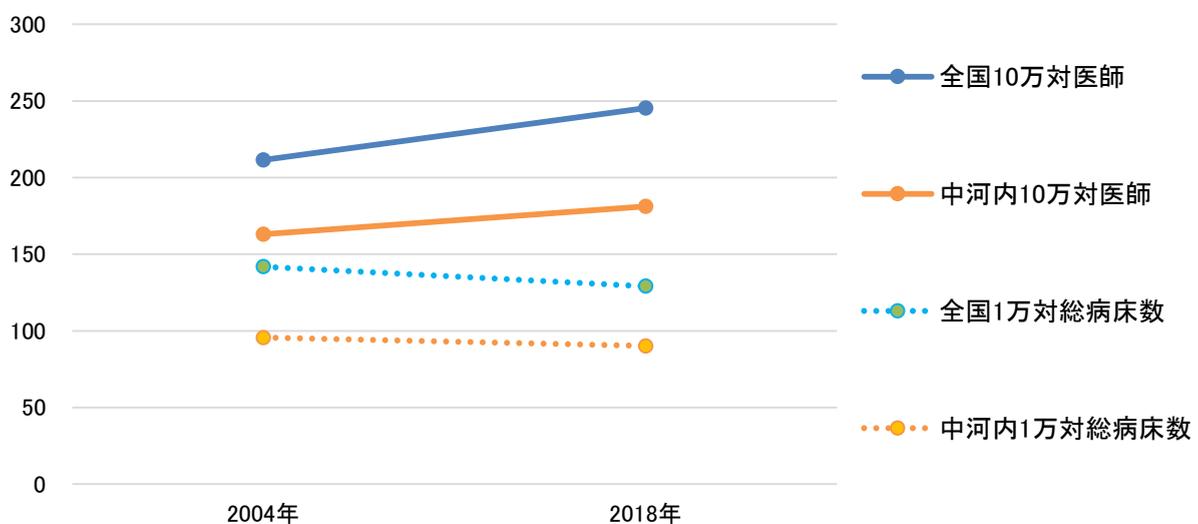
2004年の病院数が43(人口10万人当たり5病院(全国平均7.1)偏差値44)であったが、2018年に38(人口10万人当たり4.5病院(全国平均6.6)偏差値45)となり、14年間で5病院が減少した。

2004年の診療所数が702(人口10万人当たり81診療所(全国平均76)偏差値53)であったが、2018年に664(人口10万人当たり79診療所(全国平均80)偏差値49)と、38診療所が減少した。

2004年の総病床数が8,262床(人口1万人当たり96(全国平均142)偏差値42)であったが、2018年に7,601床(人口1万人当たり90(全国平均129)偏差値43)と、661床の減少、率にして8%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

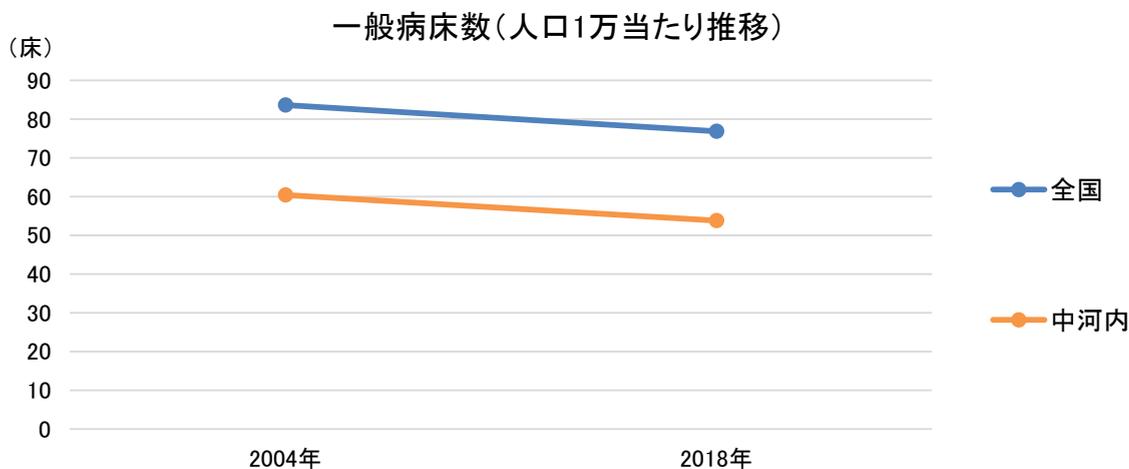
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,410人(人口10万人当たり163人(全国平均212人)偏差値44)であったが、2018年に1,527人(人口10万人当たり181人(全国平均245人)偏差値43)と、117人の増加、率にして8%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



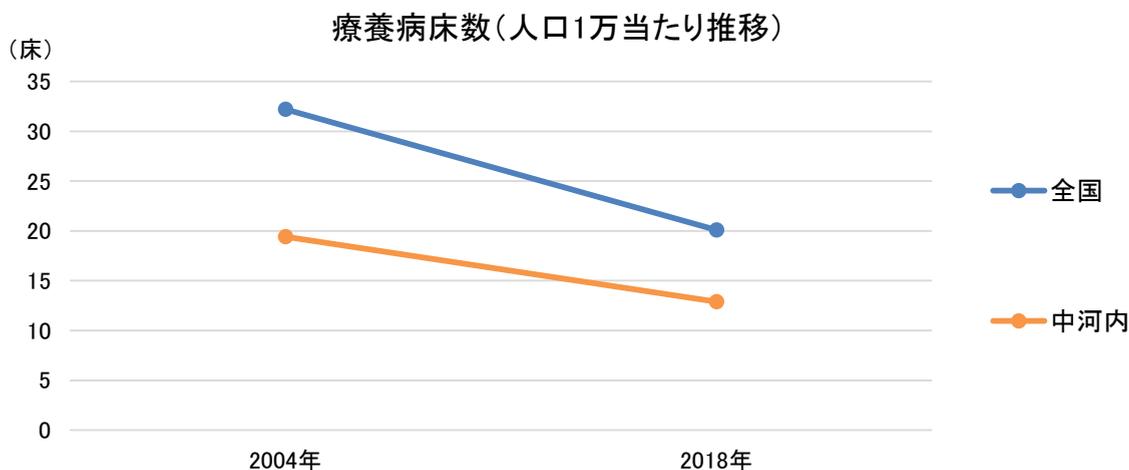
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が5,219床(人口1万人当たり60(全国平均84)偏差値42)であったが、2018年に4,533床(人口1万人当たり54(全国平均77)偏差値41)と、686床の減少、率にして13%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



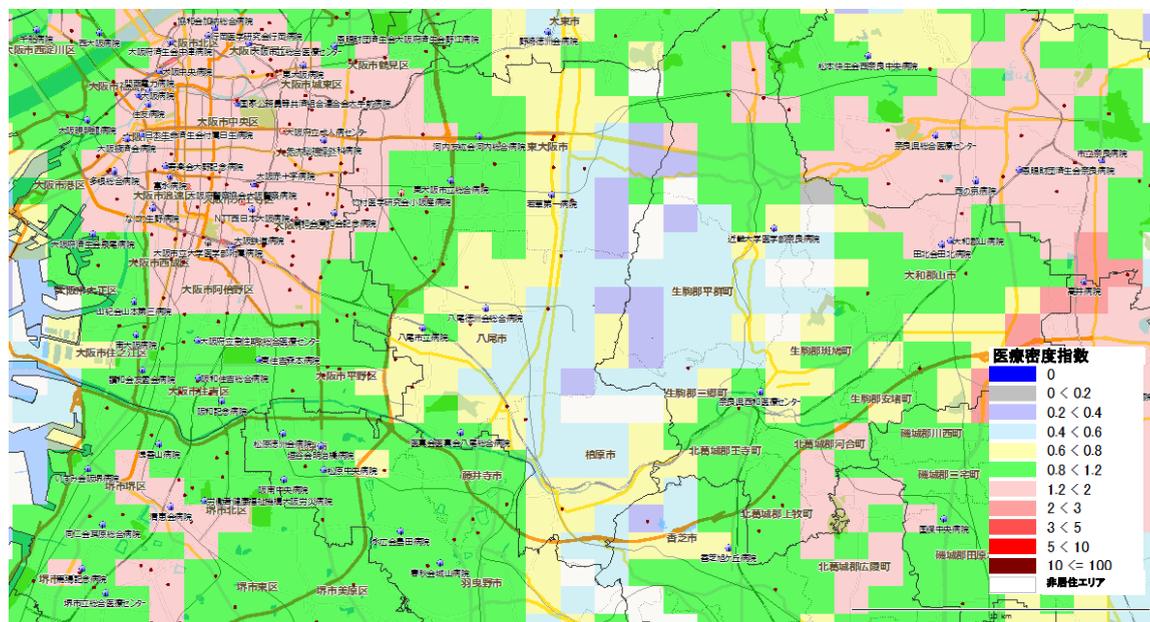
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,180床(75歳以上1,000人当たり19(全国平均32)偏差値43)であったが、2018年に1,328床(75歳以上1,000人当たり13(全国平均20)偏差値44)と、148床の増加、率にして13%の増加(全国平均12%の減少)が見られた。



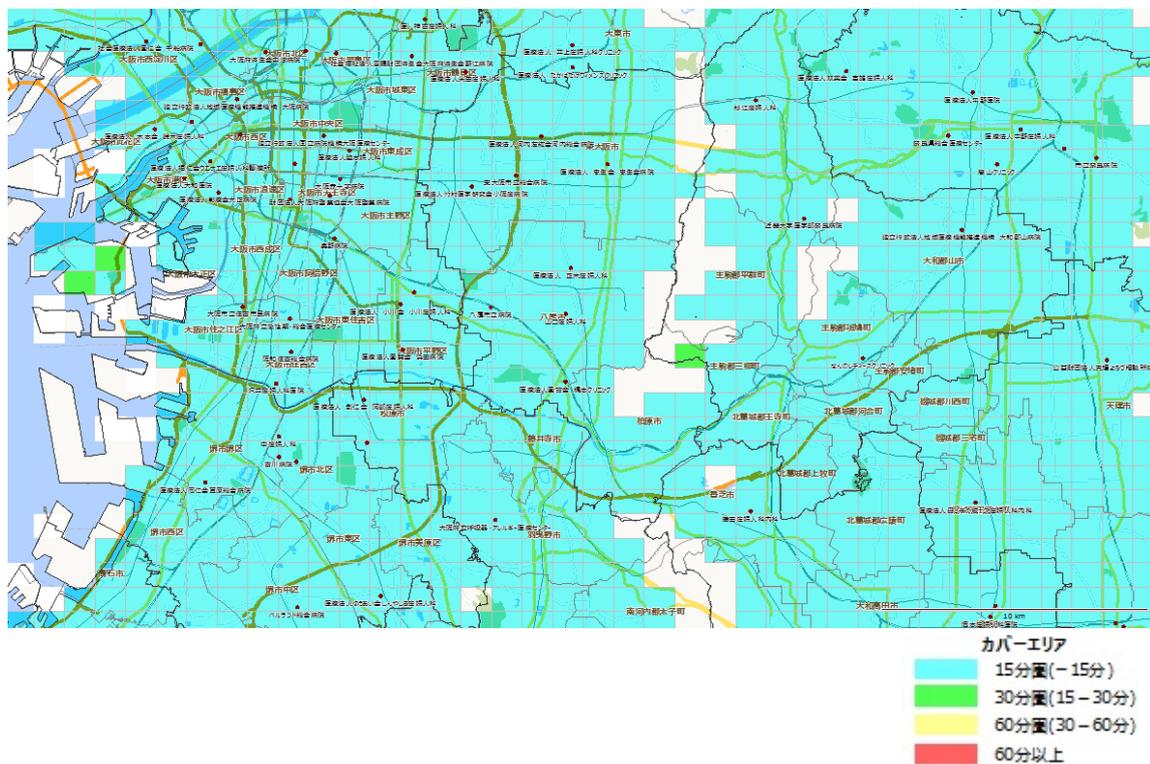
(中河内医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-4-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-4-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

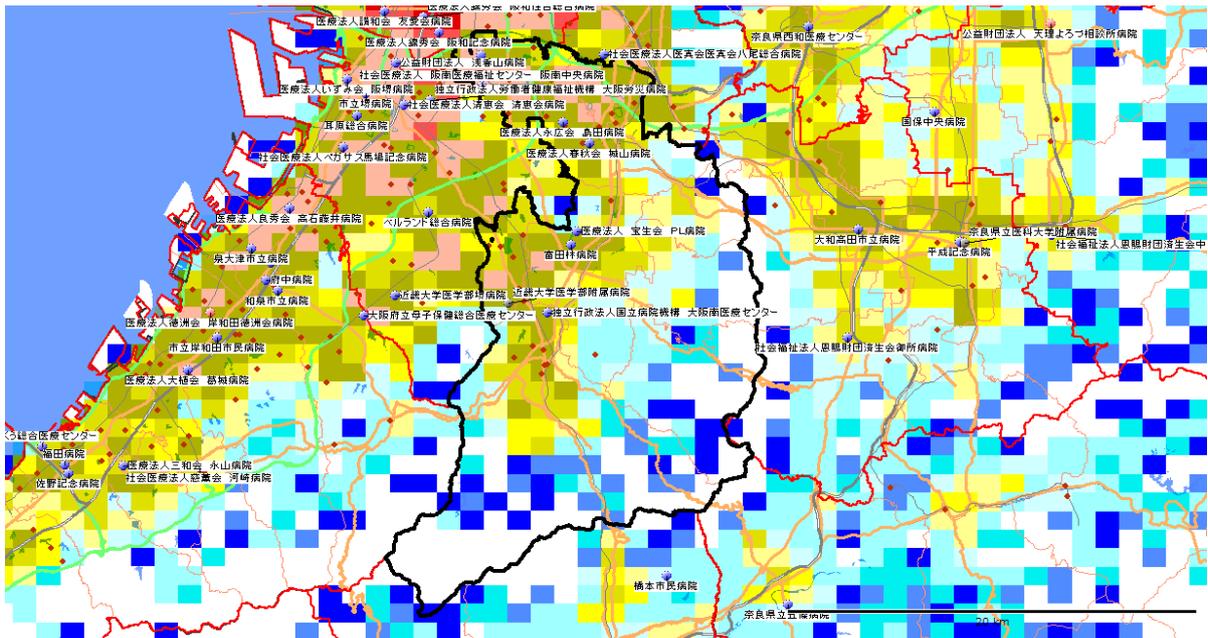


27-5. みなみかわち 南河内医療圏

構成市区町村 [富田林市](#) [河内長野市](#) [松原市](#) [羽曳野市](#)
[藤井寺市](#) [大阪狭山市](#) [太子町](#) [河南町](#)
[千早赤阪村](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ



(南河内医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 南河内(富田林市)は、総人口約613千人(2015年)、面積290km²、人口密度は2,113人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 南河内の総人口は2025年に554千人へと減少し(2015年比-10%)、2040年に446千人へと減少する(2025年比-19%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の79千人が、2025年にかけて115千人へと増加し(2015年比+46%)、2040年には108千人へと減少する(2025年比-6%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 南河内の一人当たり医療費(国保)は374千円(偏差値54)、介護給付費は255千円(偏差値50)であり、医療費はやや高く、介護給付費は全国平均レベルである。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 南河内の一人当たり急性期医療密度指数は0.93、一人当たり慢性期医療密度指数は1.65で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が55(病院医師数57、診療所医師数47)と、総医師数はほぼ全国平均レベルであるが、病院医師数は多い。総看護師数の偏差値は49と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は53で、一般病床はやや多い。全身麻酔数の偏差値は56と多い。南河内には、年間全身麻酔件数が2000例以上の近畿大学医学部附属病院(Ⅰ群・救命)、1000例以上のNH0大阪南医療センター(Ⅲ群)、城山病院(Ⅲ群)、運動器ケアしまだ病院(Ⅲ群)、500例以上のPL病院(Ⅲ群)、富田林病院(Ⅲ群)、松原徳洲会病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は52と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値47とやや少なく、回復期病床数は偏差値43と少ない。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は50で精神病床数は全国平均レベルである。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は47で診療所数はやや少ない。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 南河内の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、7,033人(75歳以上1,000人当たりの偏差値40)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が4,100床(偏差値42)、高齢者住宅等が2,933床(偏差値46)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回り、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、5,705人(75歳以上1,000人当たりの偏差値44)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設41、特別養護老人ホーム46、介護療養型医療施設50、有料老人ホーム47、軽費ホーム53、グループホーム43、サ高住51である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値61と多く、在宅療養支援病院は偏差値58と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値62と多い。介護職員(在宅)の合計は、1,478人(75歳以上1,000人当たりの偏差値60)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-63%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(南河内医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

南河内医療圏の総人口は、2005年649,601人が、2015年に612,886人と6%減少し、2025年の人口が554,175人と予測され、2005年→2025年の間に15%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に13%増加し、2015年から2025年にかけて3%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

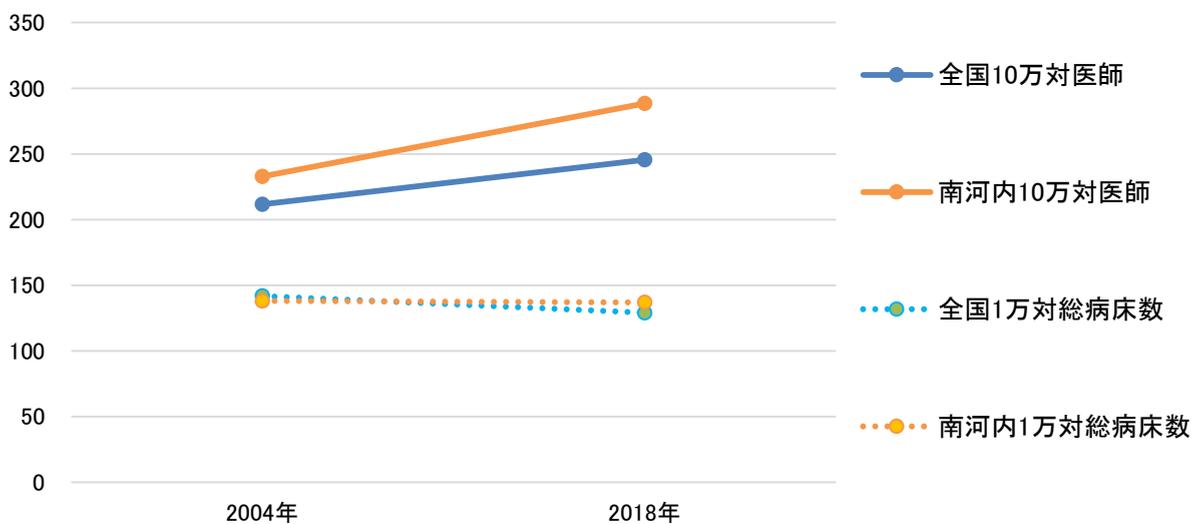
2004年の病院数が39(人口10万人当たり6病院(全国平均7.1)偏差値47)であったが、2018年に38(人口10万人当たり6.2病院(全国平均6.6)偏差値49)となり、14年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が437(人口10万人当たり67診療所(全国平均76)偏差値46)であったが、2018年に462(人口10万人当たり75診療所(全国平均80)偏差値47)と、25診療所が増加した。

2004年の総病床数が8,970床(人口1万人当たり138(全国平均142)偏差値49)であったが、2018年に8,401床(人口1万人当たり137(全国平均129)偏差値51)と、569床の減少、率にして6%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

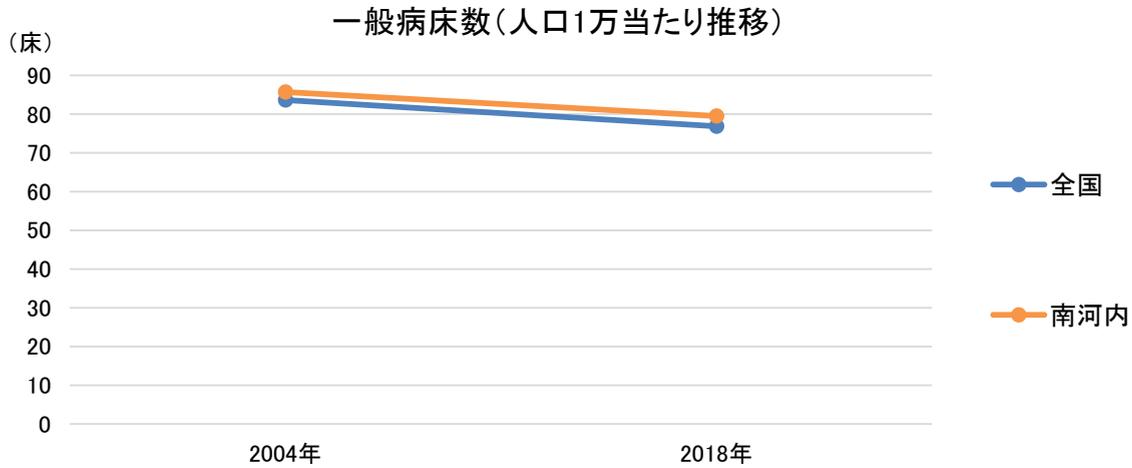
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,513人(人口10万人当たり233人(全国平均212人)偏差値53)であったが、2018年に1,768人(人口10万人当たり288人(全国平均245人)偏差値55)と、255人の増加、率にして17%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



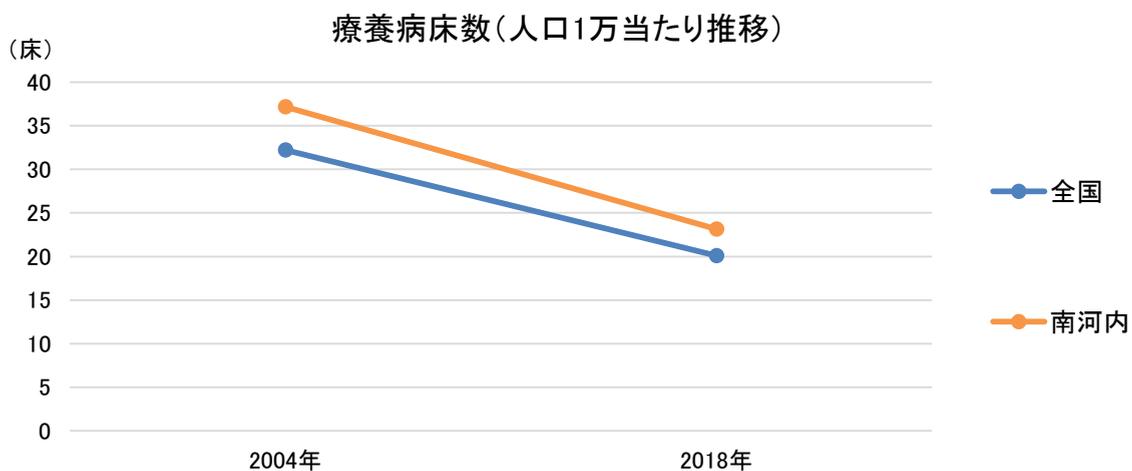
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が5,568床(人口1万人当たり86(全国平均84)偏差値51)であったが、2018年に4,873床(人口1万人当たり80(全国平均77)偏差値51)と、695床の減少、率にして12%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



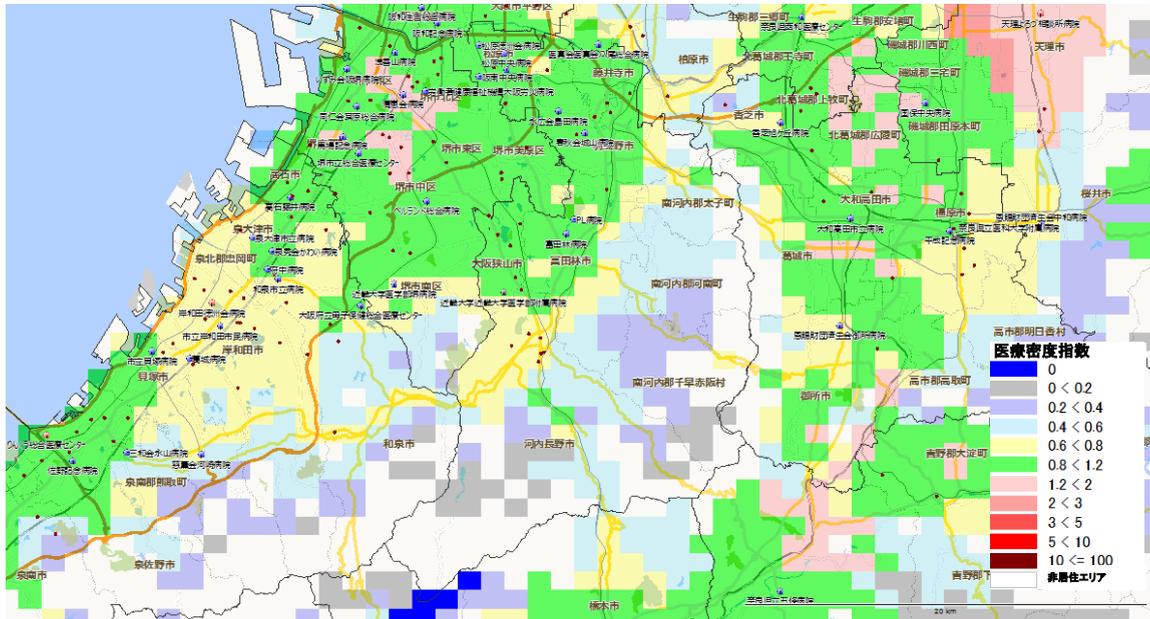
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1,837床(75歳以上1,000人当たり37(全国平均32)偏差値53)であったが、2018年に1,822床(75歳以上1,000人当たり23(全国平均20)偏差値53)と、15床の減少、率にして1%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



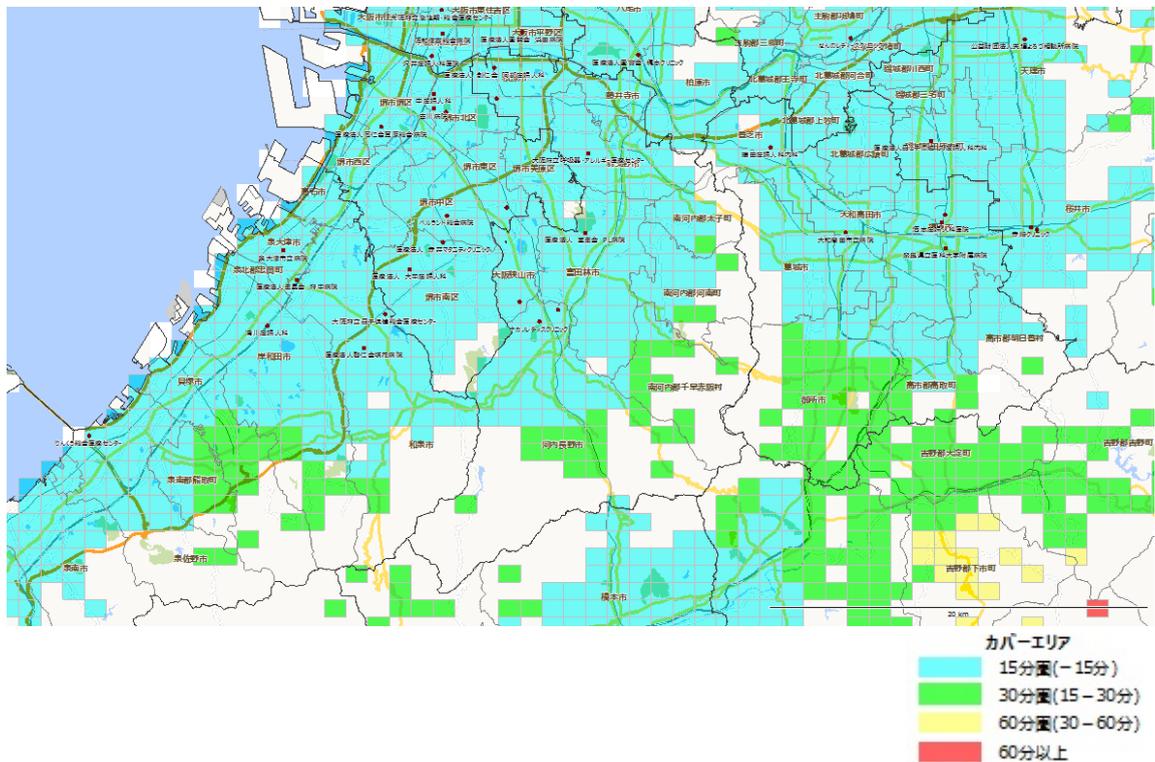
(南河内医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-5-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-5-2 分娩医療機関への所用運転時間 (カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

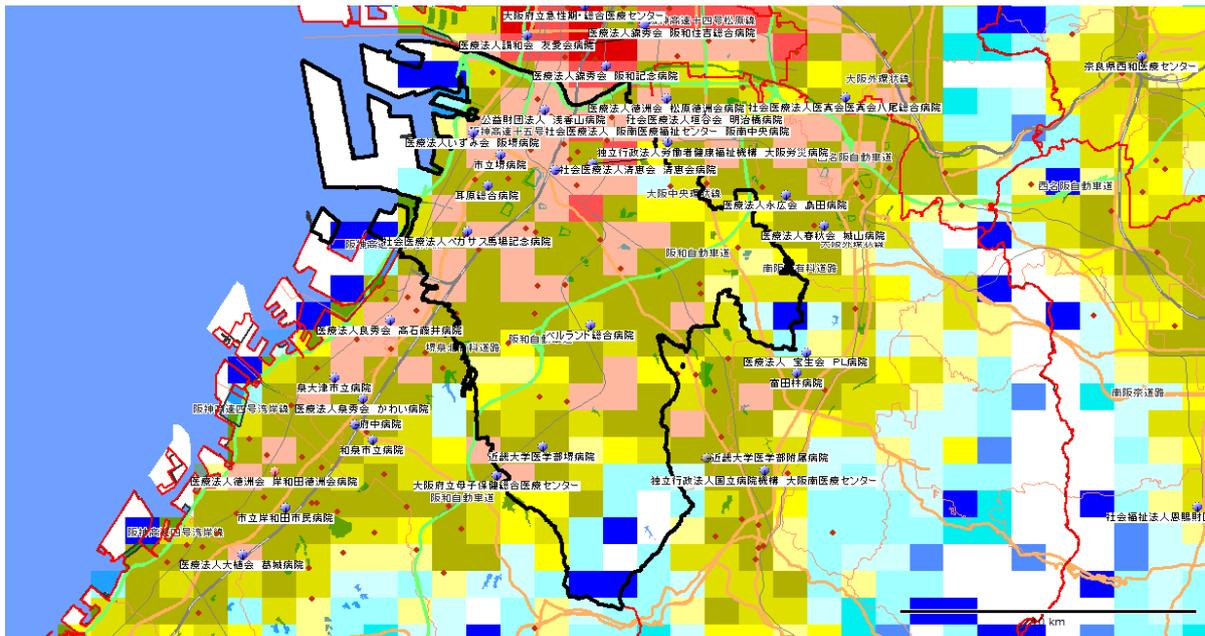


27-6. さかいし堺市医療圏

構成市区町村 [堺区](#) [中区](#) [東区](#) [西区](#)
[南区](#) [北区](#) [美原区](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所：国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ

区画内人口 (1平方キロ)



DPC病院



(堺市医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 堺市(堺市堺区)は、総人口約839千人(2015年)、面積150km²、人口密度は5,602人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 堺市の総人口は2025年に813千人へと減少し(2015年比-3%)、2040年に734千人へと減少する(2025年比-10%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の100千人が、2025年にかけて150千人へと増加し(2015年比+50%)、2040年には137千人へと減少する(2025年比-9%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 堺市の一人当たり医療費(国保)は382千円(偏差値56)、介護給付費は268千円(偏差値54)であり、医療費は高く、介護給付費はやや高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 堺市の一人当たり急性期医療密度指数は1.09、一人当たり慢性期医療密度指数は1.57で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が47(病院医師数47、診療所医師数50)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は50と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は49で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は47とやや少ない。堺市には、年間全身麻酔件数が2000例以上の大阪労災病院(Ⅲ群)、堺市立総合医療センター(Ⅱ群・救命)、ベルランド総合病院(Ⅱ群)、500例以上の清恵会病院(Ⅲ群)、耳原総合病院(Ⅲ群)、馬場記念病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は59と療養病床数は多い。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値52と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値49と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は53で精神病床数はやや多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は54で診療所数はやや多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 堺市の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、10,074人(75歳以上1,000人当たりの偏差値47)と全国平均レベルをやや下回る。そのうち、介護保険施設の定員が4,681床(偏差値38)、高齢者住宅等が5,393床(偏差値56)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、7,131人(75歳以上1,000人当たりの偏差値42)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設42、特別養護老人ホーム43、介護療養型医療施設なし(偏差値42)、有料老人ホーム47、軽費ホーム51、グループホーム49、サ高住69である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値66と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値54とやや多い。また、訪問看護ステーションは偏差値74と非常に多い。介護職員(在宅)の合計は、3,153人(75歳以上1,000人当たりの偏差値84)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-64%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(堺市医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

堺市医療圏の総人口は、2005年830,966人が、2015年に839,310人と1%増加し、2025年の人口が812,527人と予測され、2005年→2025年の間に2%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に19%増加し、2015年から2025年にかけて6%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

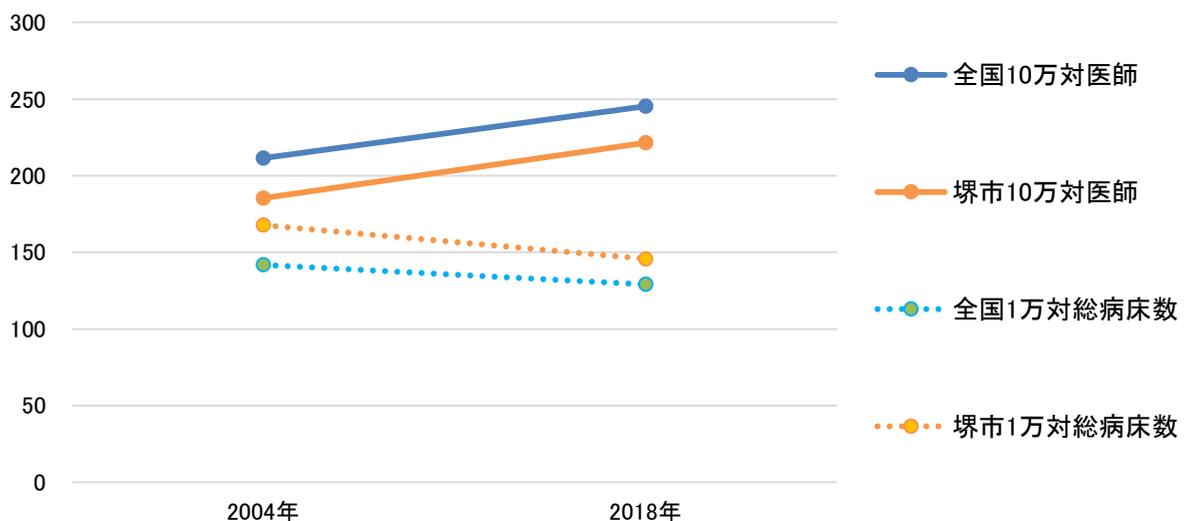
2004年の病院数が47(人口10万人当たり5.7病院(全国平均7.1)偏差値46)であったが、2018年に44(人口10万人当たり5.2病院(全国平均6.6)偏差値47)となり、14年間で3病院が減少した。

2004年の診療所数が709(人口10万人当たり85診療所(全国平均76)偏差値55)であったが、2018年に740(人口10万人当たり88診療所(全国平均80)偏差値54)と、31診療所が増加した。

2004年の総病床数が13,942床(人口1万人当たり168(全国平均142)偏差値55)であったが、2018年に12,233床(人口1万人当たり146(全国平均129)偏差値53)と、1,709床の減少、率にして12%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

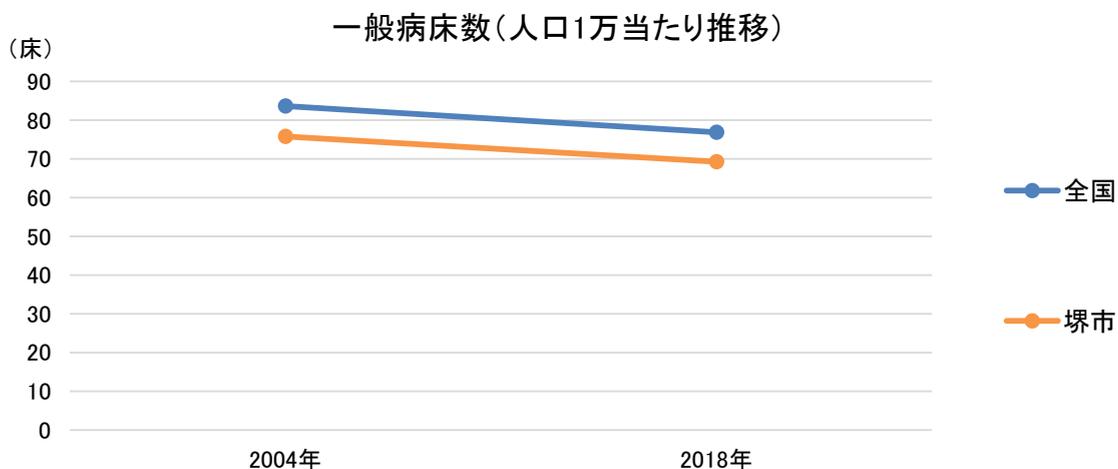
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,541人(人口10万人当たり185人(全国平均212人)偏差値47)であったが、2018年に1,859人(人口10万人当たり221人(全国平均245人)偏差値47)と、318人の増加、率にして21%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



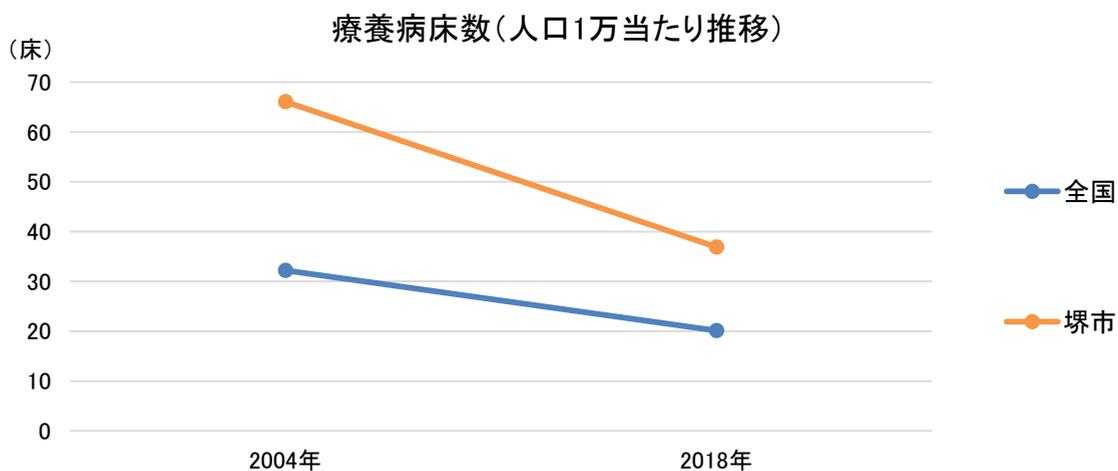
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が6,298床(人口1万人当たり76(全国平均84)偏差値47)であったが、2018年に5,813床(人口1万人当たり69(全国平均77)偏差値47)と、485床の減少、率にして8%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



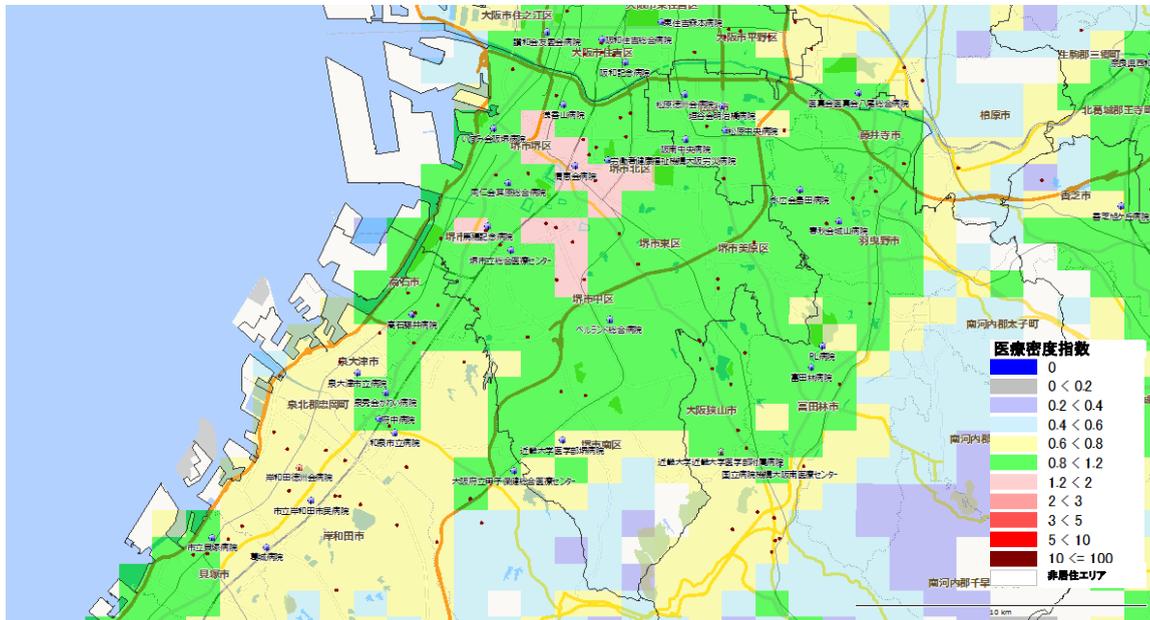
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が4,023床(75歳以上1,000人当たり66(全国平均32)偏差値69)であったが、2018年に3,700床(75歳以上1,000人当たり37(全国平均20)偏差値65)と、323床の減少、率にして8%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



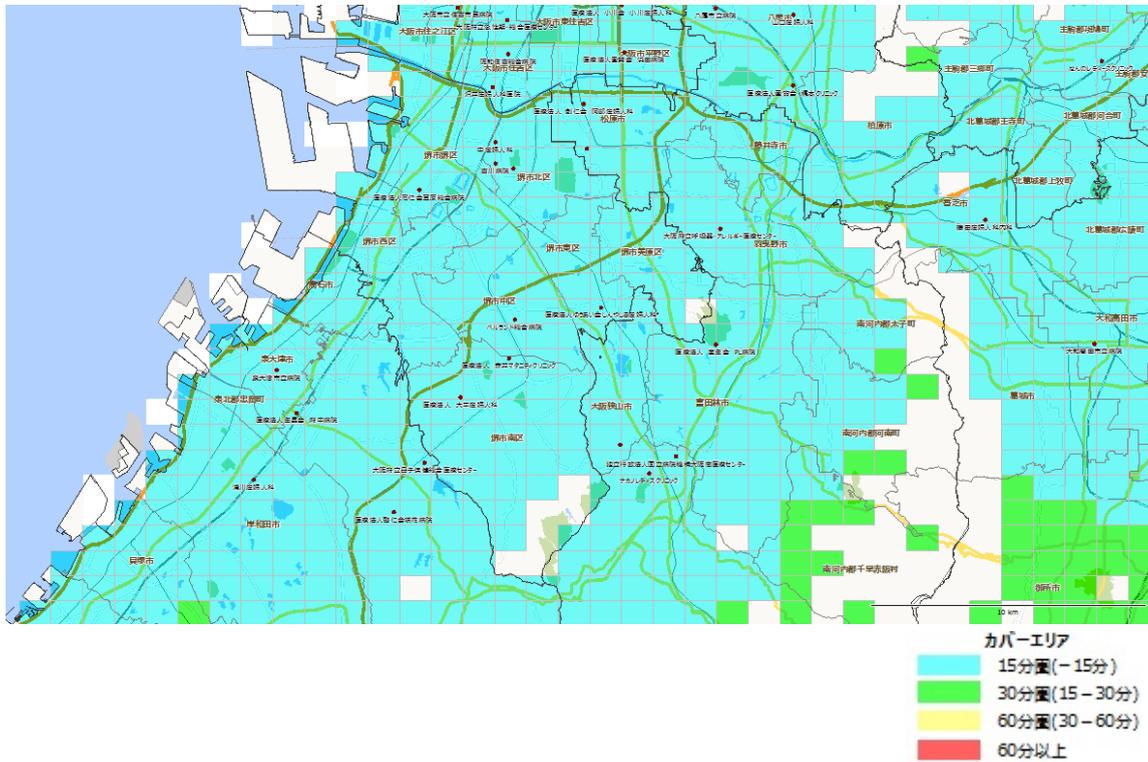
(堺市医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-6-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-6-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

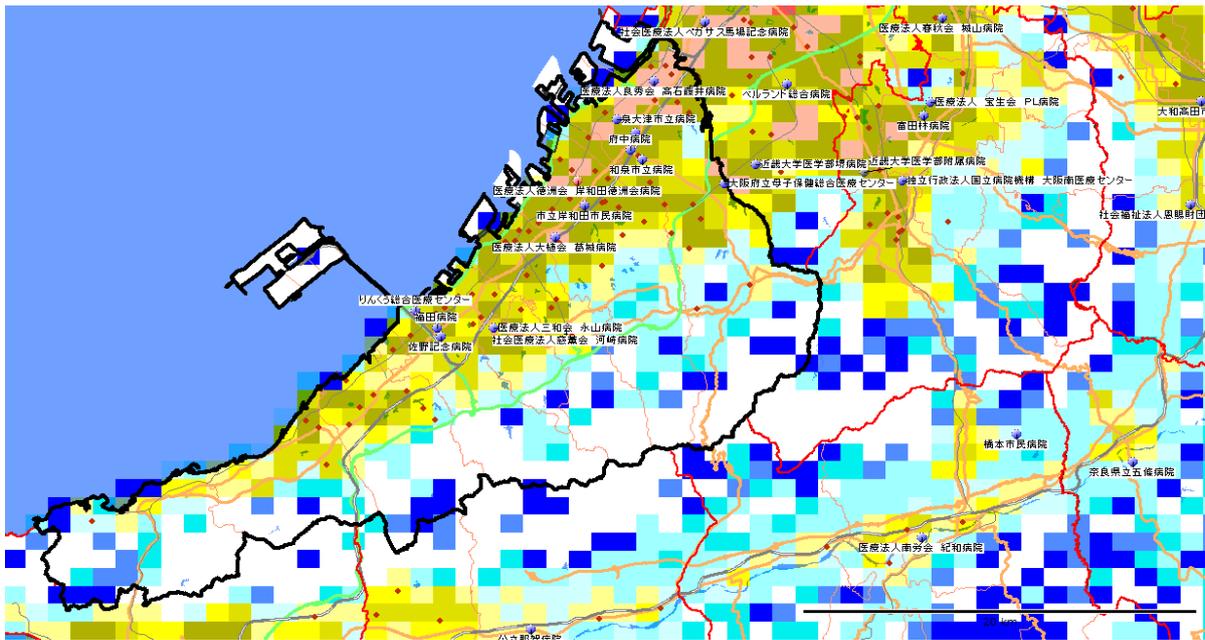


27-7. せんしゅう 泉州医療圏

構成市区町村 [岸和田市](#) [泉大津市](#) [貝塚市](#) [泉佐野市](#)
[和泉市](#) [高石市](#) [泉南市](#) [阪南市](#)
[忠岡町](#) [熊取町](#) [田尻町](#) [岬町](#)

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布(1km²区画単位)



1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査(平成22年、総務省) 地図情報GIS Market Analyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ



(泉州医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 泉州(岸和田市)は、総人口約906千人(2015年)、面積445km²、人口密度は2,036人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 泉州の総人口は2025年に851千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年に738千人へと減少する(2025年比-13%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の104千人が、2025年にかけて146千人へと増加し(2015年比+40%)、2040年には142千人へと減少する(2025年比-3%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 泉州の一人当たり医療費(国保)は372千円(偏差値54)、介護給付費は252千円(偏差値49)であり、医療費はやや高く、介護給付費は全国平均レベルである。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 泉州の一人当たり急性期医療密度指数は0.78、一人当たり慢性期医療密度指数は1.07で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が47(病院医師数48、診療所医師数46)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は51と全国平均レベルである。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は41で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は50と全国平均レベルである。泉州には、年間全身麻酔件数が2000例以上の大阪母子医療センター(Ⅲ群)、りんくう総合医療センター(Ⅱ群・救命)、岸和田徳洲会病院(Ⅱ群・救命)、1000例以上の市立岸和田市民病院(Ⅲ群)、市立貝塚病院(Ⅲ群)、葛城病院(Ⅲ群)、府中病院(Ⅲ群)、500例以上の佐野記念病院(Ⅲ群)、泉大津市立病院(Ⅲ群)、咲花病院(Ⅲ群)、和泉市立総合医療センター(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は60と療養病床数は多い。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値52と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値57と多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は70で精神病床数は非常に多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は47で診療所数はやや少ない。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 泉州の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9,305人(75歳以上1,000人当たりの偏差値41)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が4,608床(偏差値36)、高齢者住宅等が4,697床(偏差値51)である。介護保険施設は全国平均レベルを下回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員(介護施設等)の合計は、6,135人(75歳以上1,000人当たりの偏差値31)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設42、特別養護老人ホーム39、介護療養型医療施設48、有料老人ホーム41、軽費ホーム53、グループホーム40、サ高住72である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値57と多く、在宅療養支援病院は偏差値64と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値62と多い。介護職員(在宅)の合計は、2,840人(75歳以上1,000人当たりの偏差値76)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-99%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、非常に多くの高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

(泉州医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

泉州医療圏の総人口は、2005年916,993人が、2015年に905,908人と1%減少し、2025年の人口が850,739人と予測され、2005年→2025年の間に7%程度の減少が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に14%増加し、2015年から2025年にかけて3%程度の増加が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

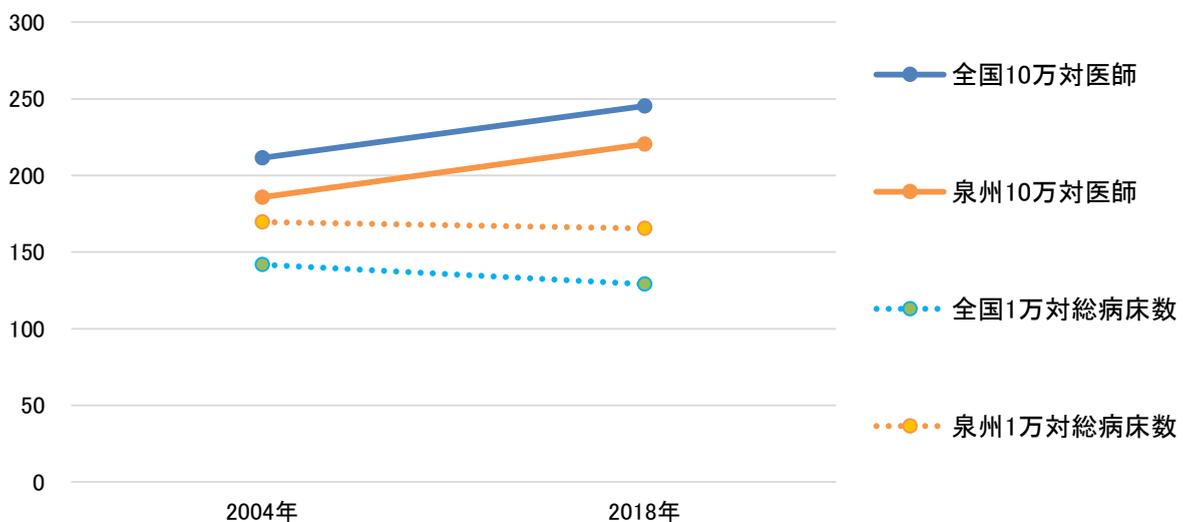
2004年の病院数が81(人口10万人当たり8.8病院(全国平均7.1)偏差値54)であったが、2018年に76(人口10万人当たり8.4病院(全国平均6.6)偏差値55)となり、14年間で5病院が減少した。

2004年の診療所数が607(人口10万人当たり66診療所(全国平均76)偏差値45)であったが、2018年に668(人口10万人当たり74診療所(全国平均80)偏差値47)と、61診療所が増加した。

2004年の総病床数が15,563床(人口1万人当たり170(全国平均142)偏差値55)であったが、2018年に14,994床(人口1万人当たり166(全国平均129)偏差値57)と、569床の減少、率にして4%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

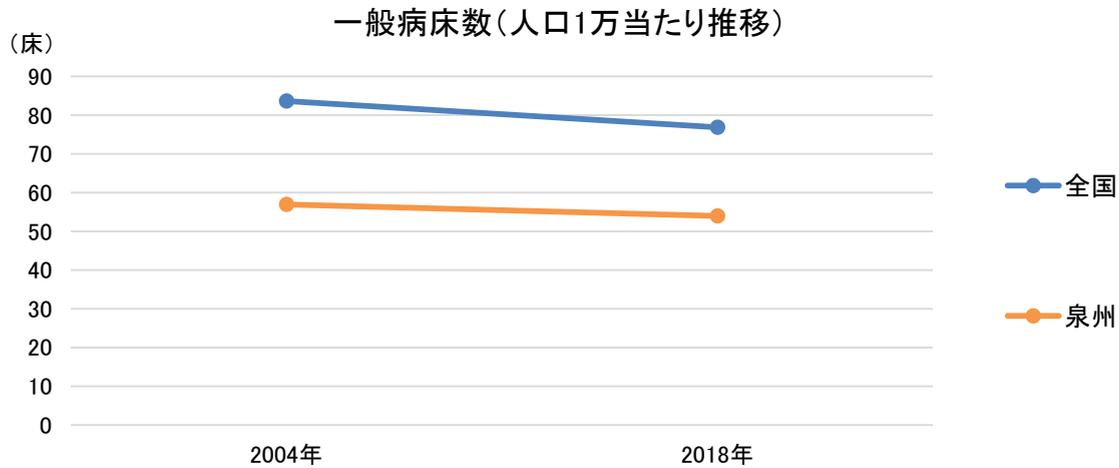
2004年には病院と診療所合わせての総医師数が1,704人(人口10万人当たり186人(全国平均212人)偏差値47)であったが、2018年に1,997人(人口10万人当たり220人(全国平均245人)偏差値47)と、293人の増加、率にして17%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

人口当たり医師数・総病床数の推移



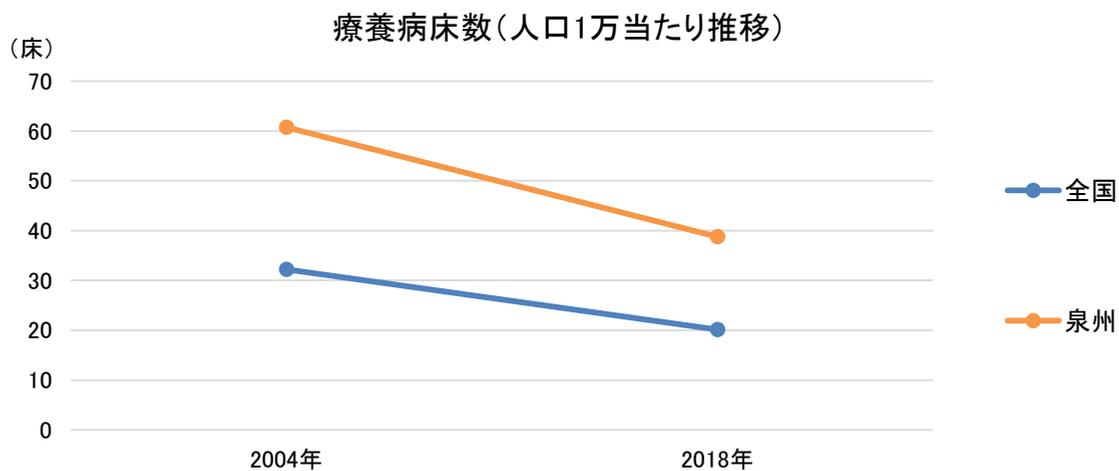
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が5,221床(人口1万人当たり57(全国平均84)偏差値41)であったが、2018年に4,892床(人口1万人当たり54(全国平均77)偏差値41)と、329床の減少、率にして6%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



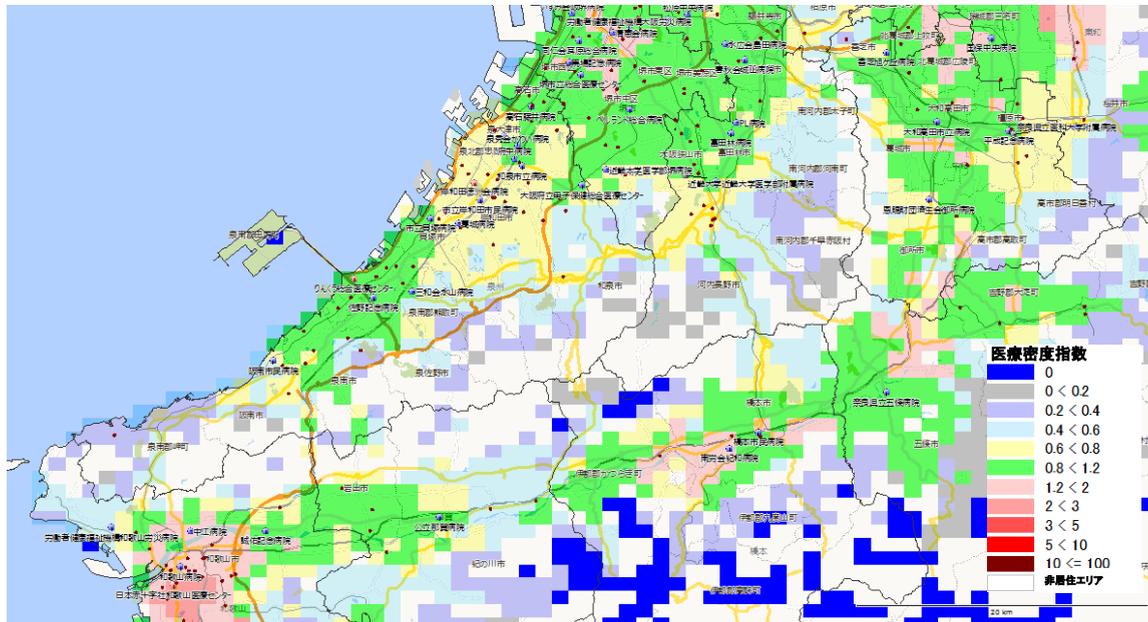
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が4,102床(75歳以上1,000人当たり61(全国平均32)偏差値66)であったが、2018年に4,014床(75歳以上1,000人当たり39(全国平均20)偏差値67)と、88床の減少、率にして2%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



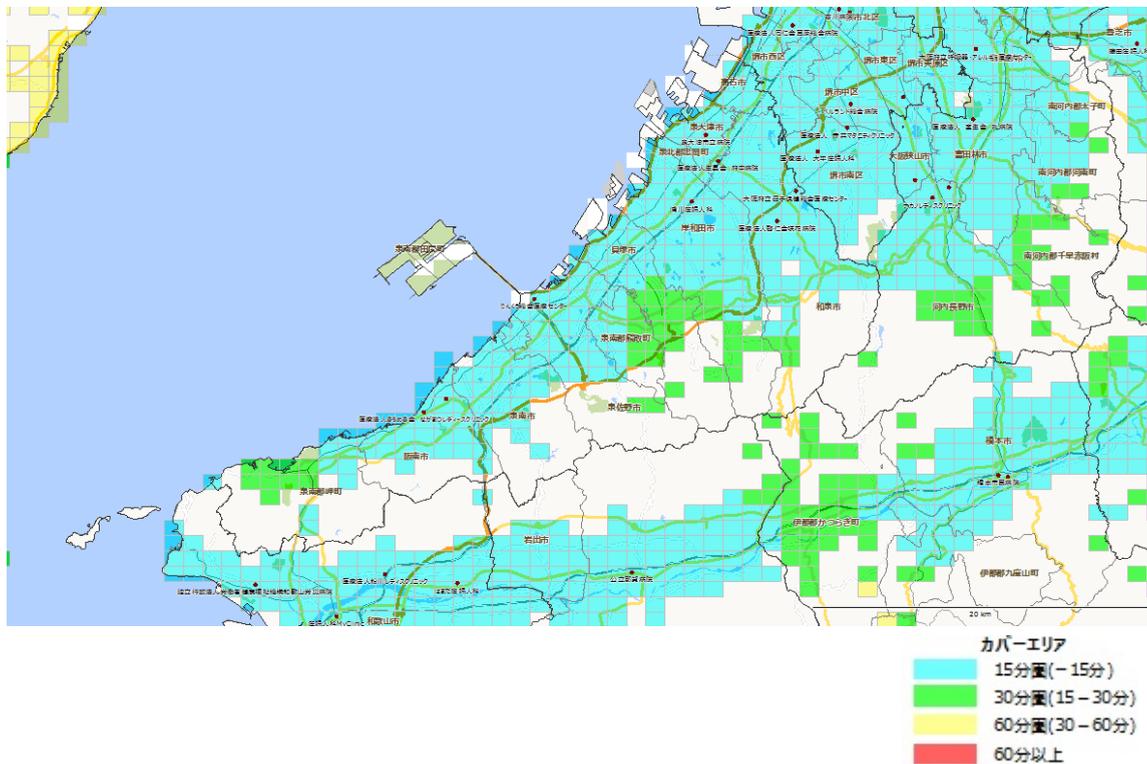
(泉州医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-7-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-7-2 分娩医療機関への所用運転時間（カバーエリア）

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関（病院と有床診療所）への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの（「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照（日医総研WP no. 400）」）

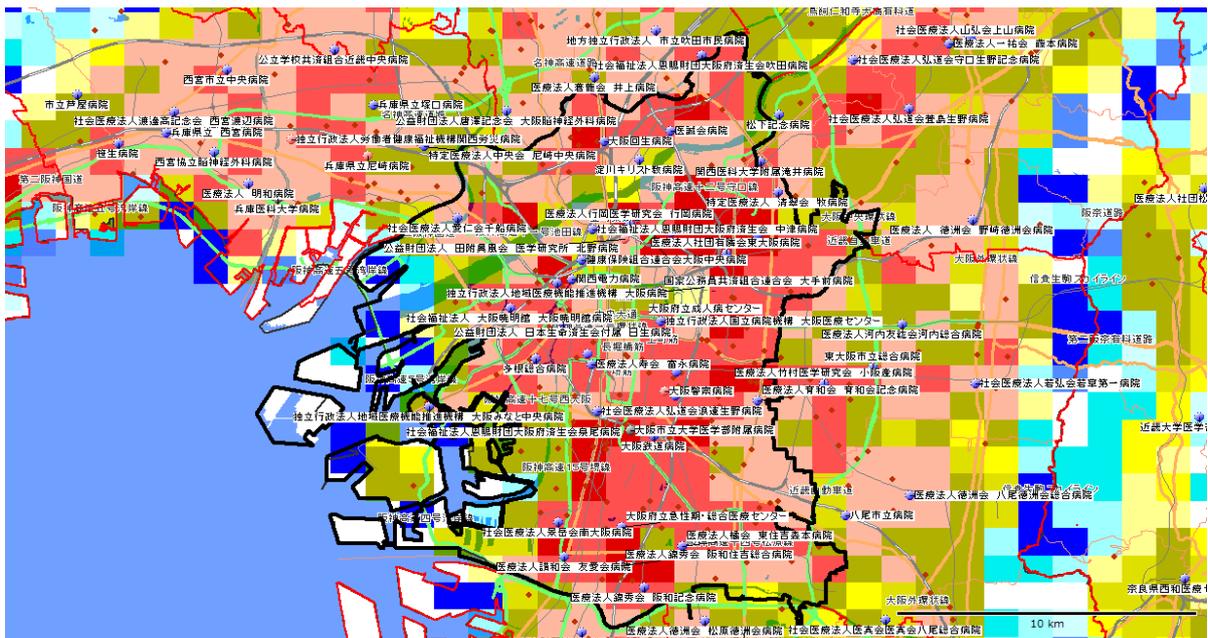


27-8. おおさかし 大阪市医療圏

構成市区町村	都島区	福島区	此花区	西区
	港区	大正区	天王寺区	浪速区
	西淀川区	東淀川区	東成区	生野区
	旭区	城東区	阿倍野区	住吉区
	東住吉区	西成区	淀川区	鶴見区
	住之江区	平野区	北区	中央区

※日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能
<http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。

人口分布 (1km²区画単位)



1km²区画 (1km²メッシュ) で分割した各区画内の居住人口。
 赤色系統は人口が多く (10,000人/km²以上)、黄色系統は
 中間レベル (1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が
 少ない (1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
 出所: 国勢調査 (平成22年、総務省) 地図情報GIS
 Market Analyzer ver. 3.7 地図 PAREAシリーズ



(大阪市医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 大阪市(大阪市都島区)は、総人口約2,691千人(2015年)、面積225km²、人口密度は11,948人/km²の大都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 大阪市の総人口は2025年に2,663千人へと減少し(2015年比-1%)、2040年に2,489千人へと減少する(2025年比-7%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の324千人が、2025年にかけて428千人へと増加し(2015年比+32%)、2040年には417千人へと減少する(2025年比-3%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 大阪市の一人当たり医療費(国保)は342千円(偏差値47)、介護給付費は319千円(偏差値69)であり、医療費はやや低いが、介護給付費は非常に高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 大阪市の一人当たり急性期医療密度指数は1.31、一人当たり慢性期医療密度指数は0.85で、急性期の医療は充実しているが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

*医師・看護師の現状： 総医師数の偏差値が60(病院医師数57、診療所医師数67)と、総医師数と病院医師数は多く、診療所医師数は非常に多い。総看護師数の偏差値は54とやや多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は61で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は57と多い。大阪市には、年間全身麻酔件数が2000例以上のNHO大阪医療センター(Ⅲ群・救命)、JCHO大阪病院(Ⅲ群)、村田病院(Ⅲ群)、多根総合病院(Ⅲ群)、中津病院(Ⅱ群)、大阪国際がんセンター(Ⅱ群)、大阪市立総合医療センター(Ⅱ群・救命)、北野病院(Ⅱ群)、淀川キリスト教病院(Ⅱ群)、大阪急性期・総合医療センター(Ⅱ群・救命)、大阪警察病院(Ⅱ群)、大阪赤十字病院(Ⅱ群・救命)、大阪市立大学医学部附属病院(Ⅰ群・救命)、1000例以上の大手前病院(Ⅲ群)、野江病院(Ⅲ群)、住友病院(Ⅲ群)、大阪中央病院(Ⅲ群)、医誠会病院(Ⅲ群)、大阪鉄道病院(Ⅲ群)、日生病院(Ⅲ群)、千船病院(Ⅲ群)、関西電力病院(Ⅱ群)、500例以上のJCHO大阪みなと中央病院(Ⅲ群)、大阪市立十三市民病院(Ⅲ群)、大阪回生病院(Ⅲ群)、南大阪病院(Ⅲ群)、なにわ生野病院(Ⅲ群)、富永病院(Ⅲ群)、行岡病院(Ⅲ群)、牧病院(Ⅲ群)、大阪暁明館病院(Ⅲ群)、NTT西日本大阪病院(Ⅲ群)、東住吉森本病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は49と療養病床数は全国平均レベルである。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値50と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値50と全国平均レベルである。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は38で精神病床数は少ない。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は75で診療所数は非常に多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 大阪市の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、39,987人(75歳以上1,000人当たりの偏差値61)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が19,912床(偏差値50)、高齢者住宅等が20,075床(偏差値61)である。介護保険施設は全国平均レベルであるが、高齢者住宅等は全国平均レベルを上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、25,037人(75歳以上1,000人当たりの偏差値48)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

施設別の75歳以上1,000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設51、特別養護老人ホーム51、介護療養型医療施設46、有料老人ホーム59、軽費ホーム44、グループホーム50、サ高住63である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値81と非常に多く、在宅療養支援病院は偏差値54とやや多い。また、訪問看護ステーションは偏差値68と非常に多い。介護職員(在宅)の合計は、12,151人(75歳以上1,000人当たりの偏差値95)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

*介護の2025年の需要予測： 2025年の介護充足度指数は-6%であり、2025年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

(大阪市医療圏) 2. 推移

【人口と医療需要】

大阪市医療圏の総人口は、2005年2,628,811人が、2015年に2,691,185人と2%増加し、2025年の人口が2,663,262人と予測され、2005年→2025年の間に1%程度の増加が予測されている。

医療の需要(医療費ベース)は、2005年から2015年に15%増加し、2015年から2025年にかけて4%程度の増加が予測される。

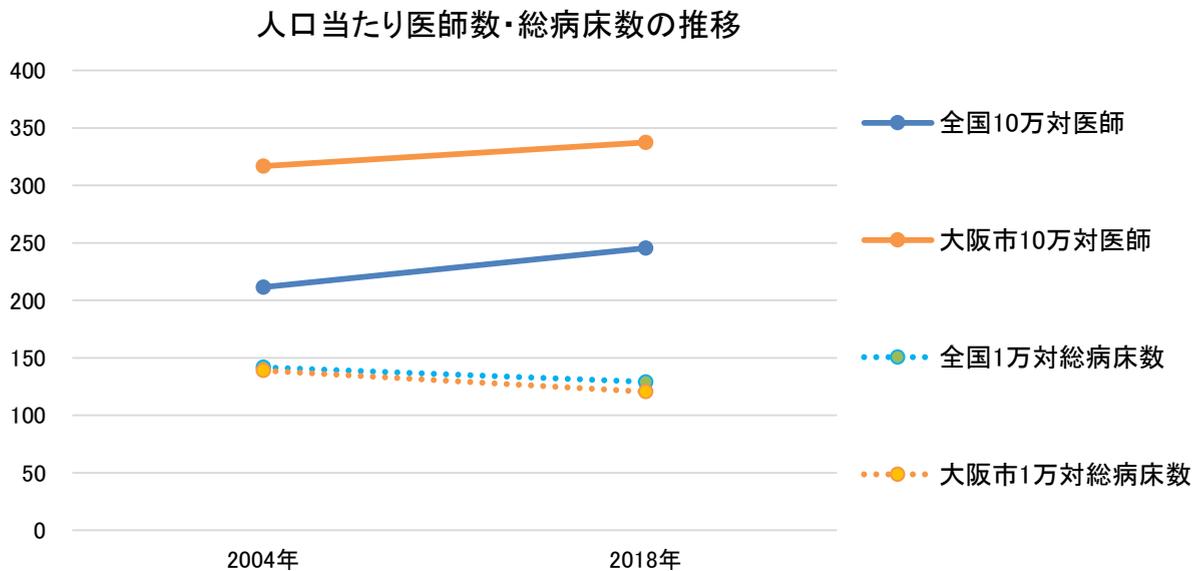
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が200(人口10万人当たり7.6病院(全国平均7.1)偏差値51)であったが、2018年に175(人口10万人当たり6.5病院(全国平均6.6)偏差値50)となり、14年間で25病院が減少した。

2004年の診療所数が3,315(人口10万人当たり126診療所(全国平均76)偏差値75)であったが、2018年に3,464(人口10万人当たり129診療所(全国平均80)偏差値75)と、149診療所が増加した。

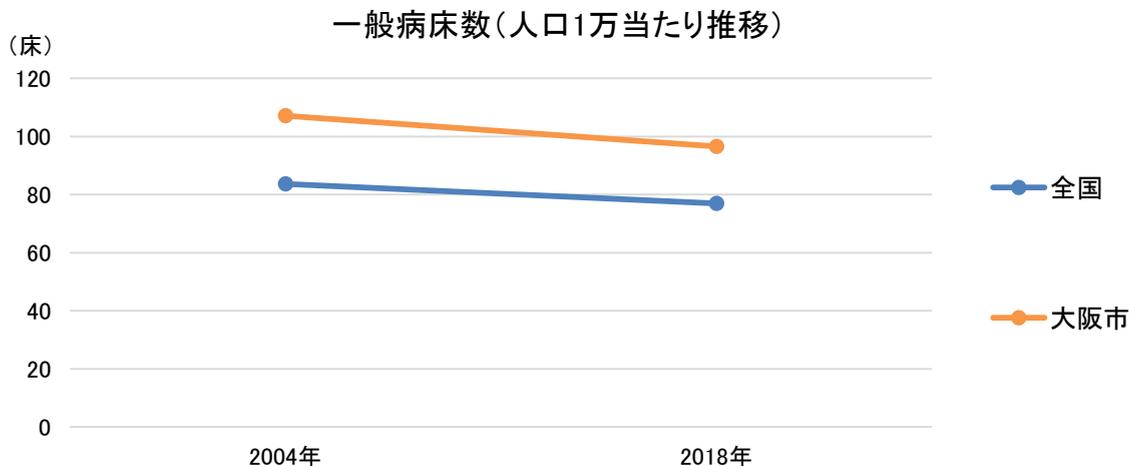
2004年の総病床数が36,564床(人口1万人当たり139(全国平均142)偏差値50)であったが、2018年に32,465床(人口1万人当たり121(全国平均129)偏差値48)と、4,099床の減少、率にして11%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての総医師数が8,332人(人口10万人当たり317人(全国平均212人)偏差値63)であったが、2018年に9,082人(人口10万人当たり337人(全国平均245人)偏差値60)と、750人の増加、率にして9%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。



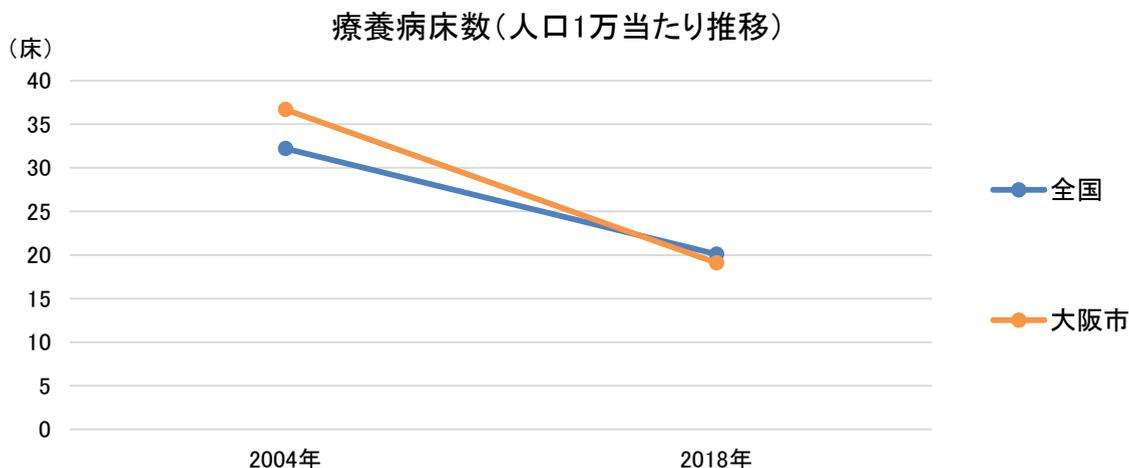
【一般病床の推移】

2004年の一般病床(病院+診療所)が28,150床(人口1万人当たり107(全国平均84)偏差値58)であったが、2018年に25,971床(人口1万人当たり97(全国平均77)偏差値58)と、2,179床の減少、率にして8%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。



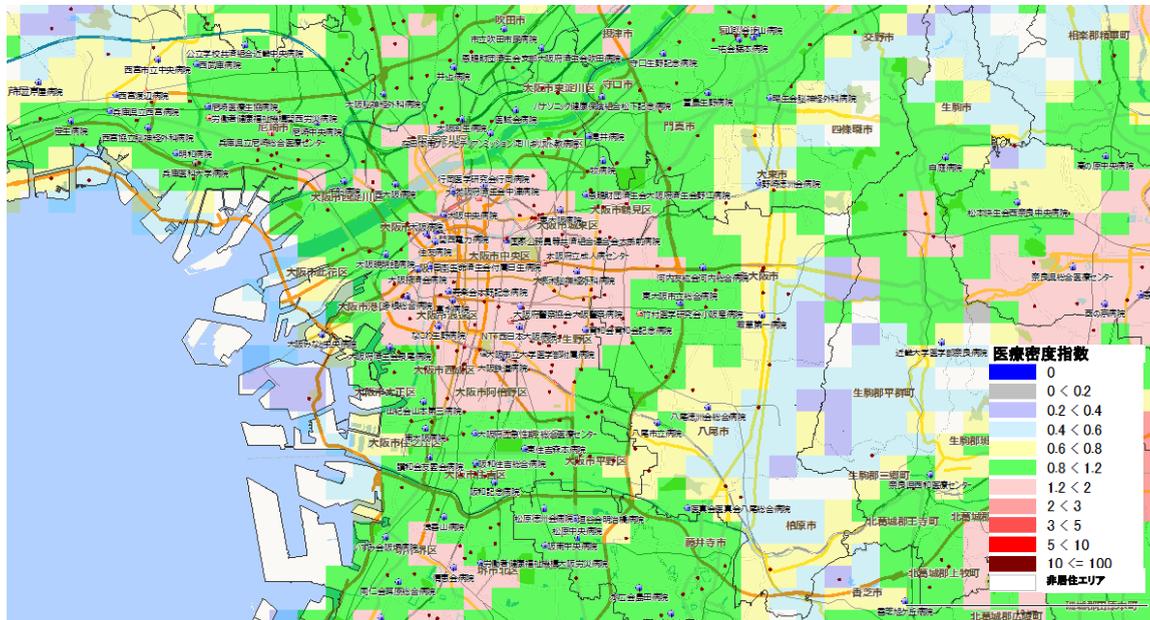
【療養病床の推移】

2004年の療養病床(病院+診療所)が8,033床(75歳以上1,000人当たり37(全国平均32)偏差値53)であったが、2018年に6,187床(75歳以上1,000人当たり19(全国平均20)偏差値49)と、1846床の減少、率にして23%の減少(全国平均12%の減少)が見られた。



(大阪市医療圏) 3. 医療密度・周産期カバーエリア

図表27-8-1 急性期医療密度指数マップ



図表27-8-2 分娩医療機関への所用運転時間(カバーエリア)

※全国1km²メッシュから最寄りの分娩取扱医療機関(病院と有床診療所)への運転時間を計算し、1km²メッシュの出生数との加重平均を用いて、市町村の平均運転時間を集計したもの(「地域の医療提供体制の現状 - 都道府県別・二次医療圏別データ集 - (2017年度版) 序章参照(日医総研WP no. 400))

